

**関西学院大学生命環境学部
設置の趣旨等を記載した書類**

目次

1	設置の趣旨及び必要性	1
	(1) 開設時期及び校地校舎の位置	1
	(2) 沿革及び設置計画の概要	1
	(3) 生命環境学部を設置する社会的な背景	2
	(4) 本学において生命環境学部を設置する理由・必要性・意義	3
	(5) 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）	3
	(6) 研究対象とする中心的な学問分野	6
2	学部・学科等の特色	8
	(1) 学部の特色	8
	(2) 学科の特色	8
3	学部・学科等の名称及び学位の名称	10
	(1) 学部の名称	10
	(2) 学科の名称及び学位の名称	11
4	教育課程の編成の考え方及び特色	11
	(1) 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）	11
	(2) 教育課程の編成及び特色	14
5	教員組織の編成の考え方及び特色	17
6	教育方法、履修指導方法及び卒業要件	20
	(1) 授業方法、履修指導方法（共通）	20
	(2) 授業方法、履修指導方法（学科別詳細）	21
7	施設、設備等の整備計画	26
	(1) 校地、運動場の整備計画	26
	(2) 校舎等施設の整備計画	26
	(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画	28
8	入学者選抜の概要	29
	(1) 学生受入れの方針（アドミッション・ポリシー）	29
	(2) 入学定員及び収容定員	31
	(3) 選抜方法	31
	(4) 選抜体制	32
9	取得可能な資格	33
10	管理運営	33
11	自己点検・評価	34
	(1) 自己点検・評価	34
	(2) 機関別認証評価	34

12	情報の公表	35
13	教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	35
	(1) 全学的な取組み	35
	(2) 生命環境学部の取組み	36
14	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	36
	(1) 教育課程内の取組みについて	36
	(2) 教育課程外の取組みについて	37
	(3) 適切な体制の整備について	37

関西学院大学生命環境学部 設置の趣旨等を記載した書類

1 設置の趣旨及び必要性

(1) 開設時期及び校地校舎の位置

令和3年(2021年)4月 関西学院神戸三田キャンパス(所在地:兵庫県三田市学園2-1)に生命環境学部を設置する。生命環境学部には、生物科学科、生命医科学科、環境応用化学科を開設する。

(2) 沿革及び設置計画の概要

関西学院は創立以来、「キリスト教主義に基づく全人教育」によって世界で活躍する多くの卒業生を輩出してきた。令和元年(2019年)9月28日には、創立130周年を迎えた幼稚園から大学院までを擁する総合学園である。本学はキリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集う全ての者が生涯をかけて取組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命としている。関西学院のスクールモットーである“Mastery for Service”は、「奉仕のための練達」と訳され、隣人・社会・世界に仕えるため、自らを鍛えるという関学人の在り方を示している。

関西学院大学は、学校教育法及び教育基本法の規定するところに従い、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、キリスト教主義に基づいて人格を陶冶することを目的としている。創立当初から培われてきた国際性と社会貢献への使命感を身につけた世界市民の育成を重視し、11学部(神、文、社会、法、経済、商、人間福祉、国際、教育、総合政策、理工)と14研究科で構成される総合大学として、「スクールモットー“Mastery for Service”を体現する世界市民の育成」への取組みを続けている。

現在、関西学院では、創立150周年を迎える令和21年(2039年)を見据えた将来構想「Kwansei Grand Challenge 2039」の下、社会に貢献する有為な人材を育成するため、様々な取組みを開始している。令和21年(2039年)の日本は、超高齢化社会となり、18歳人口が現在より約3割減少し、AI等によって社会や仕事の在り方が劇的に変化することが予想されている。将来構想「Kwansei Grand Challenge 2039」は、ダイナミックに変化を続ける社会状況の中でも、卒業生には、「真に豊かな人生」を送ってほしいとの願いを実現させるため、未来予測や外部環境の分析から関西学院のあるべき姿を考え策定したものである。

理工学部改組・発展の計画は、この将来構想「Kwansei Grand Challenge 2039」の一環として実施するものである。本学の理工系分野において、より質の高い充実した教育・研究を実現し、社会・産業構造の変化及び質の高い理工系人材への需要に対応するため、令和3年(2021年)4月、理工学部を改組・発展させ、新たに理学部、工学部、生命環境学部、建築学部の4学部を開設する予定である(資料1「理工学部改組転換全体図」)

参照)。

生命環境学部については、既設の理工学部生命科学科、生命医化学科及び環境・応用化学科を基礎に、生物科学科、生命医科学科、環境応用化学科の3学科を開設する。

(3) 生命環境学部を設置する社会的な背景

近代文明は天然資源と生物資源を活用して発展してきた。生活は豊かになったが、大量生産・大量消費・大量廃棄の結果、エネルギー・食糧資源の不足、環境破壊、人口爆発・高齢化社会の到来といった新たな課題が生まれた。我が国は天然資源が乏しい。また、世界で最も早く超高齢化社会に突入する。大量消費型社会から環境にやさしく持続可能な再生・共生型社会へのシフトを実現し、これから直面する環境、食糧、健康等、現代社会の課題の解決にライフイノベーション、グリーンイノベーションを通じて寄与することができる人材の育成が望まれている。

国連においては、「持続可能な開発目標 (SDGs)」が設定された。「持続可能な開発目標 (SDGs)」とは、平成 27 年 (2015 年) 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された平成 28 年 (2016 年) から令和 12 年 (2030 年) までの国際目標である。持続可能な世界を実現するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成されており、格差の問題、持続可能な消費や生産、気候変動対策等、普遍的 (ユニバーサル) な目標である。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、先進国を含めた全ての国、全てのステークホルダー (政府、企業、NGO、有識者等) が役割を担うことが求められている。我が国も平成 28 年 (2016 年) 5 月には安倍内閣総理大臣を本部長、全閣僚を構成員とした「SDGs 推進本部」を、同時に産学の有識者を集めた「SDGs 推進円卓会議」を設置した。以降、SDGs 実施に関する国内基盤の整備のための検討が重ねられ、平成 30 年 (2018 年) 6 月の第 6 回会合では「SDGs アクションプラン 2019」が決定された。また、政府による SDGs 推進の取組みとしては、「経済財政運営と改革の基本方針 2018」や「未来投資戦略 2018」(いずれも平成 30 年 (2018 年) 6 月 15 日閣議決定) にその骨子が盛り込まれている。

SDGs の推進には、大学も積極的な役割を期待されている。本学では、世界をよりよいものへ変革するための国際目標である SDGs により積極的に貢献するため、平成 31 年 (2019 年) 4 月、企画担当理事・学長の下に「SDGs 推進本部」を設置し、「関西学院 SDGs 宣言」を公表している。同本部を中心に「関西学院 SDGs 宣言」に基づいた方針策定、現状に関する検証・マッピングや今後の具体的な行動計画「“Mastery for Service” for SDGs Initiatives」の立案を進めている。環境と生命、ヒトの健康との関わりを広範かつ包括的に扱い、環境低負荷型のものづくり技術を開発する能力、生物の環境適応能力を分子レベルで解析し、客観的に評価する能力、人の暮らしや食の安全を支える技術を創造する能力、先進分析技術を医療分析に活用する能力を有し、現代社会の課題の解決にライフイノベーション、グリーンイノベーションを通じて寄与することができる人材を育成し、現代社会が抱える課題の解決に向けて教育研究を遂行する学部の設置は、「持続可能な開発目標 (SDGs)」にも貢献するものである。

(4) 本学において生命環境学部を設置する理由・必要性・意義

前述の背景を踏まえて、関西学院大学に生命環境学部を設置する。生命環境学部は、自然科学の基本原則とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義を基盤において再生・共生型社会の構築に貢献することを理念としている。また、自然科学の基礎知識と生命科学分野、環境化学分野の専門知識を修得し、関連した科学技術の発展に資する課題解決力と高い倫理観及びグローバル化に対応できる能力を備えた人材を養成することで、社会に貢献することを目的とする。生命環境学部には、生物科学科、生命医科学科、環境応用化学科の3学科を設置する。

生物科学科は、生物学の知識を身につけ、生態系や生命現象のデータを情報解析する能力、さらには生物機能を分子レベルで解析し、応用する能力をもった人材を養成することで社会に貢献することを目的とする。

生命医科学科は、生命科学の確固たる知識に加え、基礎医学、薬学、医工学分野やデータサイエンスに関連した知識を兼ね備え、健全な倫理観をもってヒトの健康に関わる基礎医学系分野で活躍し、ライフイノベーションに資する人材を育成することで社会に貢献することを目的とする。

環境応用化学科は、物質の多様な性質を原子・分子レベルで理解するだけでなく、マクロな視点から地球のしくみをも理解し、これらの化学知識をベースとして多様な地球環境問題に柔軟に取り組む、国際的に活躍できる人材を育成し、グリーンイノベーションを通じて社会に貢献することを目的とする。

自然豊かな兵庫県三田市に位置する関西学院神戸三田キャンパスは、生命と環境の共生を意識することができる恵まれた環境にある。本学部は、同キャンパスにおいて、生命及び生命を取巻く環境問題に高い関心をもち、再生・共生型社会の構築に貢献する人材を養成することで、社会に貢献できるものと期待される。

なお、前述のとおり、本学部の設置と同時期に理学部、工学部及び建築学部が設置される。既設の総合政策学部と併せて、関西学院神戸三田キャンパスは、5学部を擁するキャンパスへと生まれ変わる。関西学院神戸三田キャンパスを拠点とする5学部は各々の専門分野、個性、強みを生かしながら、充実した教育研究活動を展開する。5学部の教育研究や学生の交流が相乗効果を生み出すことで、関西学院神戸三田キャンパス及び関西学院大学全体の教育研究活動がさらに活性化することが期待される。生命環境学部においても、周辺地域や日本国内はもとより、世界で、関西学院のスクールモットーである“Mastery for Service”を体現する世界市民として、よりよい社会の実現に向けて活躍することができる人材を育成する。

(5) 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

関西学院は、キリスト教主義に基づく全人教育によって「“Mastery for Service”を体現する世界市民」を育成することを使命としており、その実現に向けて、全ての学生が卒業時に学部の区別なく共通に身につけるべき知識・能力・資質を「Kwansei コンピテンシー」と定め、この獲得を念頭において、生命環境学部の理念の下、生命環境学部各学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を以下のとおり定める。

【生物科学科】

生物科学科は、生物学、数理科学、化学を基盤とし、生物機能の活用者としてグローバルに活躍できる思考力を備えた人材、また、新産業分野として創出が加速される生物科学関連のデータサイエンス産業に対応できる専門性の高い人材を育成する。

よって、以下のような知識と能力を有する学生に「学士（理学）」の学位を授与する。

1. [関心・意欲・態度] 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢

- (1) 自らを律する強さと高い倫理観をもち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。
- (2) 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、再生・共生型社会の構築に貢献しようとする意欲をもっている。

2. [知識・理解] 幅広い知識と深い専門性

- (1) 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。
- (2) 生物学、数理科学、化学における基礎知識を体系的・構造的に理解している。
- (3) 生命科学分野における基礎的な技能を修得している。
- (4) 基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識及び柔軟な思考力を有している。
- (5) 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展がもつ意義を理解している。

3. [技能・表現] 実践的な学習技能とコミュニケーション力

- (1) 生命科学関連のデータサイエンス産業に対応し、コンピュータを活用したデータ分析力を有し、生命科学の研究から生成されるデータを解析できる能力を身につけている。
- (2) 生物機能を分子レベルで理解し、その理解に基づいて応用するための論理的思考力、情報収集力、表現力を身につけている。
- (3) 日本語及び英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。

4. [思考・判断] 課題解決のための総合的思考・判断力

- (1) 現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力及び課題解決能力を身につけている。
- (2) 生物機能の活用者としてグローバルに活躍できる思考力・判断力を備えている。

【生命医科学科】

生命医科学科は、数学、物理学、化学等を基盤として生命科学を修得し、生命に対する健全な倫理観と専門知識をもって、基礎医学・薬学・医工学分野に応用できるように基礎医学系分野と医学系情報学分野の研究を推進することができる人材を育成する。

よって、以下のような知識と能力を有する学生に「学士（生命医科学）」の学位を授

与する。

1. [関心・意欲・態度] 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢

- (1) 自らを律する強さと高い倫理観をもち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。
- (2) 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、再生・共生型社会の構築に貢献しようとする意欲をもっている。

2. [知識・理解] 幅広い知識と深い専門性

- (1) 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。
- (2) 生物学、物理化学、数理科学における基礎知識を体系的・構造的に理解している。
- (3) 生命医科学分野における基礎的な技能を修得している。
- (4) 基礎知識や基礎的な技能を基礎医学・薬学・医工学分野に応用するための知識及び柔軟な思考力を有している。
- (5) 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展がもつ意義を理解している。

3. [技能・表現] 実践的な学習技能とコミュニケーション力

- (1) ヒトの健康に関わる医学、薬学、医工学系産業に対応し、コンピュータを活用したデータ分析力を有し、生命医科学研究から生成されるデータを解析できる能力を身につけている。
- (2) 生命現象を分子レベルで理解し、その知識を応用するための論理的思考力、情報収集力、表現力を身につけている。
- (3) 日本語及び英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。

4. [思考・判断] 課題解決のための総合的思考・判断力

- (1) 現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力及び課題解決能力を身につけている。
- (2) 基礎医学的な視点から、ライフイノベーションに貢献し、グローバルに活躍できる思考力・判断力を備えている。

【環境応用化学科】

環境低負荷型の持続可能な社会の実現のために、地球環境にやさしい合成法や機能性材料の開発に関する知識や技術を身につけ、化学的な視点からグリーンイノベーションに資する人材を育成する。

よって、以下のような知識と能力を有する学生に「学士(工学)」の学位を授与する。

1. [関心・意欲・態度] 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢

- (1) 自らを律する強さと高い倫理観をもち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。
- (2) 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、再生・共生型社会の構築に貢献しようとする意欲をもっている。

2. [知識・理解] 幅広い知識と深い専門性

- (1) 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。
- (2) 環境応用化学分野における基礎知識を体系的・構造的に理解している。
- (3) 環境応用化学分野における基礎的な技能を修得している。
- (4) 基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識及び柔軟な思考力を有している。
- (5) 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展がもつ意義を理解している。

3. [技能・表現] 実践的な学習技能とコミュニケーション力

- (1) 論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。
- (2) ミクロな視点、マクロな視点の両面から地球環境問題に取り組む能力を身につけている。
- (3) 日本語及び英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。

4. [思考・判断] 課題解決のための総合的思考・判断力

- (1) 現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力及び課題解決能力を身につけている。
- (2) 化学的な視点からグリーンイノベーションに貢献し、グローバルに活躍できる思考力・判断力を備えている。

(6) 研究対象とする中心的な学問分野

生命環境学部の各学科が研究対象とする中心的な学問分野は次のとおりである。

【生物科学科】

生物機能の活用を通じて再生・共生型社会の構築に貢献するため、生物科学科は、生物学、数理科学、化学を基盤とし、以下の分野を中心に教育研究を行う。

① 植物昆虫科学

植物学及び昆虫学を基礎として生命のしくみを理解するとともに、生命を分子レベルで分析・評価するための知識や技術を身につける。植物分子生物学、植物生産学、昆虫生理生態学、環境生態学等の植物昆虫科学分野を中心に教育研究を行う。

② 応用微生物学

微生物学を基礎として生命のしくみを理解するとともに、生命を分子レベルで分析・評価するための知識や技術を身につける。応用微生物学、遺伝子工学、染色体機能学、光合成微生物学、発酵醸造学等の応用微生物学分野を中心に教育研究を行う。

③ 計算生物学

数理科学的に生命を理解するための計算生物学の基礎を理解するとともに、多様な生物学のデータを分析・評価するための知識や技術を身につける。数理脳科学、バイオインフォマティクス、数理生態学等の計算生物学分野を中心に教育研究を行う。

【生命医科学科】

基礎医学的な視点から、生命科学の活用を通じてライフイノベーションに貢献するため、数学、物理学、化学の基礎、生命科学及び基礎医学分野の基本的な知識や技能を基盤として、以下の分野を中心に教育研究を行う。

① 発生再生医科学

発生生物学、細胞学、再生医学、ゲノム・エピゲノム医学、器官形成学等の発生再生医科学分野を中心に教育研究を行う。

② 生命医科学

薬理学、生理学、発がん分子機構学、ストレス応答学、免疫学等の基礎医学分野を中心に教育研究を行う。

③ 医工学

データ科学、神経科学、医学統計学、生命工学等の医工学分野を中心に教育研究を行う。

【環境応用化学科】

化学的な視点からグリーンイノベーションに貢献するため、以下の領域から教育研究を行う。

① 環境分析・地球化学系

地球や環境を化学の立場から捉え地球環境問題の解決に貢献するため、地球化学を基礎として地球のしくみを理解するとともに、環境を分析・評価するための知識や技術を身につける。そのために、地球環境化学、地球物質科学、環境分析化学、環境無機化学分野を中心に教育研究を行う。

② 機能探索系

環境・エネルギーの観点から物質に潜在する機能や物質変化のメカニズムを明らかにするため、光・電子機能を中心とする物質の多様な性質を物理化学的手法によって

探索するための知識や技術を身につける。そのために、ナノ材料光科学、バイオ物質科学、ナノバイオ計測科学分野を中心に教育研究を行う。

③ 物質創成系

地球環境にやさしく持続可能な社会を実現するため、環境にやさしい合成法の開発や環境にやさしい機能性材料を創成するための知識や技術を身につける。そのために、機能有機化学、触媒有機反応化学、機能性高分子合成化学分野を中心に教育研究を行う。

2 学部・学科等の特色

(1) 学部の特色

生命環境学部は、生命科学と環境科学を融合することで、多面的な角度から環境と生命を取巻く諸問題をライフイノベーション、グリーンイノベーションを通じて解決することを目的とする。全ての学科において、分子レベルの研究、フィールドワークを伴う実践的な教育を展開する。また、PBL科目（Project Based Learning）を導入し、グローバルに環境と生命の共生を考える視野を涵養する。

(2) 学科の特色

生命環境学部の各学科の特色は次のとおりである。

【生物科学科】

生物科学科は3つの専攻により構成され、フィールドワークを通じた体験学習や生命現象を情報科学的手法で解析する技術を学びながら、生物の多様性と環境適応の機構を科学的に分析する能力を養うことを特色とする。生物機能の活用を通じて再生・共生型社会の構築に貢献するため、生命のしくみを理解するとともに、生命を分子レベルで分析・評価するための知識や技術を身につける。

① 植物昆虫科学専攻

植物の光合成反応の分子機構、環境適応、多様性について理解する植物分子生物学、植物生産等の実用的な植物利用を作物学、土壌学を交えて理解する植物生産学、昆虫学を基礎として生態系を構成する個体間の相互作用を分子レベルから理解する昆虫生理生態学を中心に教育研究を行う。

② 応用微生物学専攻

様々な微生物の特徴と、環境適応の機構を生化学的視点で理解する応用微生物学、主に酵母を用いて、転写、複製、組み換え、分配、エピゲノム修飾等といった染色体機能について研究する染色体機能学、海洋におけるCO₂固定の主要な担い手である珪藻の代謝機構について理解する光合成微生物学を中心に教育研究を行う。

③ 計算生物学専攻

配列、構造、ゲノム等の様々な分子レベルの生物学データの解析手法の開発と応用研究を通じて、生物機能や進化を理解する生命情報科学、脳の電気パルスデータの解析手法の開発と応用研究を通じて脳機能を理解する数理脳科学を中心に教育研究を行う。

【生命医科学科】

生命医科学科は3つの専攻により構成され、生化学や分子生物学等、医科学を共通基盤として、ヒトを含む哺乳動物に関する生命現象を解明し、医療や創薬等、基礎医学分野へ応用することにより、ヒトの疾病治療や健康維持に役立てることを特色とする。基礎医学的な視点から、生命科学の活用を通じてライフイノベーションに貢献するため、各専攻に応じた知識や技能を身につける。

① 発生再生医科学専攻

発生再生医学分野の知識や技能を身につけ、組織の発生や分化の分子機構と再生医療への応用を研究する再生医学、動物の器官形成の分子メカニズムを研究する器官形成学、生殖細胞がもつ種の連続性と多様性のしくみを研究するエピゲノム生殖医学を中心に教育研究を行う。

② 生命医科学専攻

基礎医学分野の知識や技能を身につけ、内分泌攪乱物質や酸素濃度の変化に対する生体応答を研究する環境医学、免疫応答に関わるタンパク質分子の質と機能を保つ機構を研究する薬理・免疫学、細胞のがん化抑制機構とその破綻による発がん機構を研究する発がん分子構学を中心に教育研究を行う。

③ 医工学専攻

医工学分野の知識や技能を身につけ、生体イメージングにより神経伝達機構及び脳神経疾患の分子機構を研究する脳神経科学、分子分光学の生命科学と医療への応用をめざす光応用医工学、生体システムの数理解析と数理モデリングに基づいて生体の機能を研究する数理生体医工学を中心に教育研究を行う。

【環境応用化学科】

環境応用化学科は、化学的な視点からグリーンイノベーションに代表される環境問題の解決に寄与し、環境問題に貢献できる人材の育成をめざすことを特色とする。そのため環境化学の他、分析化学、無機化学、物理化学、有機化学等の化学の基礎を十分に学修することにより、環境問題に取り組むための基礎能力を身につける。さらに、地球環境と物質との関係について専門的により深く学ぶため、グリーンイノベーションを基盤とする3つの領域に大別された地球規模の環境問題の解決につながるテーマに関する教育研究を行う。

① 環境分析・地球化学系

地球・環境を化学の立場から捉え地球環境問題の解決に貢献するため、地球化学を基礎として地球のしくみを理解するとともに、環境を分析・評価するための知識や技術を身につける。具体的には、地球システムを主に化学的手法を用いて解明する地球環境化学分野、環境物質の高精度・高確度な分析を通じて地球環境を詳細に評価する環境分析化学分野、化学形態の違いによって多様な特徴を示す無機化合物の特性を解明する環境無機化学分野を中心に教育研究を行う。

② 機能探索系

環境・エネルギーの観点から物質に潜在する機能や物質変化のメカニズムを明らかにするため、光・電子機能を中心とする物質の多様な性質を物理化学的手法によって探索するための知識や技術を身につける。具体的には、物質と光の相互作用の解明による光エネルギーの有効活用や光が環境物質に与える影響を調べるナノ材料光科学分野、植物の光合成機能の解明による高効率な光電変換機能の開拓や物質の電子機能の解明によって電子デバイスへの応用をめざすバイオ物質科学分野、物理化学とナノバイオの融合で新しい光計測法を開発し健康や環境に関わる物質の高感度検出への応用をめざすナノバイオ計測科学分野を中心に教育研究を行う。

③ 物質創成系

地球環境にやさしく持続可能な社会を実現するため、環境にやさしい合成法の開発や環境にやさしい機能性材料を創成するための知識や技術を身につける。具体的には、物質に潜在する多様な反応性の開拓と合成手法の開発によって環境にやさしい機能性材料を創成する機能有機化学分野、グリーンケミストリーを指向した新しい物質供給法の実現のため、環境調和型触媒による新たな変換反応を開発する触媒有機反応化学分野、新たな精密重合技術の開発を基盤として高機能性の環境調和型高分子の合成研究を行う機能性高分子合成化学分野を中心に教育研究を行う。

これらの特色を生かした教育研究により、生命環境学部は、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」で提言されている大学の果たすべき機能の中で、「世界的研究・教育拠点」、「高度専門職業人養成」、「社会貢献機能」をより積極的に担う。

3 学部・学科等の名称及び学位の名称

(1) 学部の名称

本学部は、生命科学と環境科学を融合することで、環境・食料・健康等、現代社会の課題解決に、ライフイノベーション、グリーンイノベーションを通じて挑む学部である。よって、学部名称を生命環境学部とする。英語名称は、“School of Biological and Environmental Sciences”とした。英語名称は、上記の趣旨に鑑み、国際通用性に配慮して設定した。

(2) 学科の名称及び学位の名称

生命環境学部の各学科の名称及び学位の名称は次のとおりである。

【生物科学科】

本学科は、生物学、数理科学、化学を基盤とし、生物機能の活用者としてグローバルに活躍できる思考力を備えた人材の育成をめざしている。よって、学科名称を生物科学科とする。英語名称は、“Department of Biosciences”とする。また、本学科の研究分野及び教育課程から、授与する学位は「学士（理学）」（Bachelor of Science）とする。

学科及び学位の英語名称は、国際通用性に配慮して設定した。

【生命医科学科】

本学科は、発生再生医科学、生命医科学、医工学の3つの分野においてライフイノベーションに寄与する人材の育成をめざしている。よって、学科名称を生命医科学科とした。英語名称は、“Department of Biomedical Science”とする。また、本学科の研究分野及び教育課程から、授与する学位は「学士（生命医科学）」（Bachelor of Biomedical Science）とする。

学科及び学位の英語名称は、国際通用性に配慮して設定した。

【環境応用化学科】

本学科は、化学的な視点からグリーンイノベーションに代表される地球環境問題の解決に貢献できる人材の育成をめざしている。よって、学科名称を環境応用化学科とする。英語名称は、“Department of Applied Chemistry for Environment”とする。また、本学科の研究分野及び教育課程から、授与する学位は「学士（工学）」（Bachelor of Engineering）とする。

学科及び学位の英語名称は、国際通用性に配慮して設定した。

4 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

各学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、各学科の教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）を以下のように定める。

[総合教育科目]（3 学科共通）

「キリスト教科目」

初年次に配当し、本学の建学の精神であるキリスト教主義に基づく人間形成によって、自らを律する強さ、倫理観、他者との協調性等の基本的な態度を身につけさせる。

「英語教育科目」

自然科学・科学技術分野における共通言語である英語を低学年次に配当する。自ら情報発信できるよう、総合的な英語コミュニケーション能力を修得させる。

「総合選択科目」

社会、文化、人間、自然科学・科学技術について、幅広い教養と視野を身につけさせる。

【生物科学科】

本学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、学士（理学）を授与するにあたり必要とされる知識・技能を体系的に修得できるよう教育課程を編成する。

[専門教育科目]

「必修科目」

生物科学科の学びの基盤となる科目から卒業研究に関連する科目まで、本学科の学生全員が履修すべき科目を1年次～4年次に体系的に配当し修得させる。

「基礎科目」

1年次に配当し、生物科学分野に共通する基礎的な知識を、講義等を通じて修得させる。

「専門Ⅰ群科目」

主に2年次に配当し、生物科学分野に共通する発展的な知識を、講義等を通じて修得させる。

「専門Ⅱ群科目」

3年次に配当し、植物昆虫科学分野、応用微生物学分野及び計算生物学分野に要求される基礎的な知識や技能、またそれらに応用するための能力を、講義を通じて修得させる。

「専門選択科目」

専門的な視野を広げるため、主に生物科学分野以外の自然科学・科学技術等について、幅広い知識や技能を、講義等を通じて修得させる。

【生命医科学科】

本学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、学士（生命医科学）を授与するにあたり必要とされる知識・技能を体系的に修得できるよう教育課程を編成する。

[専門教育科目]

「必修科目」

生命医科学科の学びの基盤となる科目、生命医科学科の学生全員が身につけるべき知識と技能を修得するための科目を1年次～3年次に体系的に配当する。

「基礎科目」

主に1年次に配当し、生物学、数学、物理学、化学等の生命医科学科に共通する基礎的な知識を講義等を通じて修得させる。

「専門Ⅰ群科目」

主に2年次に配当し、生命医科学分野の基礎的な知識や技能を講義等を通じて修得させる。

「専門Ⅱ群科目」

3年次及び4年次に配当し、生命医科学分野の高度な専門知識や技能、それらを応用するための能力を講義等を通じて修得させる。

「専門選択科目」

専門的な視野を広げるために、生命医科学分野以外の自然科学・科学技術等について、幅広い知識や技能を講義等を通じて修得させる。

【環境応用化学科】

本学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、学士（工学）を授与するにあたり必要とされる知識・技能を体系的に修得できるよう教育課程を編成する。

[専門教育科目]

「必修科目」

環境応用化学科の学びの基盤となる科目から卒業研究に関連する科目まで、本学科の学生全員が履修すべき科目を1年次～4年次に体系的に配当し修得させる。

「基礎科目（数学・物理系）」

1年次、2年次に配当し、環境応用化学分野において必要となる数学・物理系の基礎的な知識を、講義を通じて修得させる。

「基礎科目（地学・生命・情報系）」

1年次、2年次に配当し、環境応用化学分野において必要となる地学、生命科学、情報科学の基礎的な知識を、講義等を通じて修得させる。

「専門Ⅰ群科目」

2年次に配当し、各領域における基礎的な知識を、講義を通じて修得させる。

「専門Ⅱ群科目」

主に3年次に配当し、各領域における基礎的な知識や基礎的な技能を応用するための知識を、講義を通じて修得させる。

「専門選択科目」

専門的な視野を広げるため、主に環境応用化学分野以外の自然科学・科学技術等について、幅広い知識や技能を、講義等を通じて修得させる。

(2) 教育課程の編成及び特色

各学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、生命環境学部における授業科目を学部に通じて実施される総合教育科目と学科ごとに編成される専門教育科目に大別している。学部に通じる総合教育科目の概要を以下に述べる。

中央教育審議会の「新しい時代における教養教育の在り方について（答申）」において、大学教養教育の課題として、幅広い視野から物事を捉え、高い倫理性に裏打ちされた的確な判断を下すことができる人材の一層の育成を挙げている。さらに、新しい時代における教養教育は、学生に、グローバル化や科学技術の進展等、社会の激しい変化に対応し得る、統合された知の基盤を与えるものでなければならないとしている。生命環境学部における教養教育は主に総合教育科目が担う。

総合教育科目は以下のとおり、①キリスト教科目、②英語教育科目、③総合選択科目の科目区分で構成されている。

- ① キリスト教科目は、1年次に配当し、本学の建学の精神であるキリスト教主義に基づく人間形成によって、自らを律する強さ、倫理観、他者との協調性等の基本的な態度を身につけさせる。キリスト教科目は必修科目とする。
- ② 英語教育科目は、1年次・2年次における必修の外国語は英語のみとし、自然科学・科学技術分野における共通言語である英語の修得をめざす。自ら発信できるよう、総合的な英語コミュニケーション能力を修得させる。入学前テストにより、よりきめ細かい指導が必要と思われる入学者には「入門英語」クラスを用意している。
- ③ 総合選択科目は、1年次・2年次に配当し、英語以外の外国語、自然科学・科学技術と社会、文化、人間の関係について、幅広く教養と視野を養成するための科目を配置している。これにより、幅広く自然科学・科学技術の基盤となる知識を修得させる。

以下、専門教育科目の概要を学科ごとに述べる。

【生物科学科】

生物科学科の専門教育科目は、①必修科目、②基礎科目、③専門Ⅰ群科目、④専門Ⅱ群科目、⑤専門選択科目の科目区分で構成される。そのうち、③専門Ⅰ群科目には生物科学科目、④専門Ⅱ群科目には植物昆虫科学科目、応用微生物科目、計算生物科目の区分を設けている。

- ① 必修科目は、以下のように配置する。1年次の「生命科学Ⅰ」、「生命科学Ⅱ」では、生物科学に関する基礎知識を、また「生命科学入門実験」では、生物科学の実験の基礎技術を身につける。「コンピュータ演習A」で生物科学に要求されるコンピュータの基本知識とプログラミングの基本を学ぶ。2年次の「生命分子・生化学実験」、「細胞・組織学実験」では、1年次の講義・実験をベースに、3年次からの発展的な実験・実習に向けての実験技能を身につける。3年次の「先端生命科学実験Ⅰ」、「先端生命科学実験Ⅱ」では、各研究室の研究テーマに関連した発展的な実験・実習を行い、卒業研究へのスムーズな取組みが可能になるように多様な知識・技術の修得を図る。4年次には、卒業研究を進める上で必要な英文専門書や研究論文の輪読・輪講によって専門知識や英語力を向上させるための「外国書講読」及び「輪講」、個々のテーマに基づく実験研究を通じて研究者・高度専門職業人としての素養を身につける「卒業実験及び演習」を履修する。
- ② 基礎科目は、本学科が目標としている、生物科学のデータを数理的に解析できる能力、生物機能を分子レベルで理解する能力をもった人材育成のため、生物学、数学、物理学、化学系の科目を中心に構成されている。履修年次は1年次とする。
- ③ 専門Ⅰ群科目には、2年次、3年次の科目として、生物科学を幅広く学びつつ、専門分野の理解を深めるための17科目を配置している。専門Ⅰ群科目に配置されている科目はいずれも生物科学的な視点から、生物機能の活用を行うために必要な基礎的な素養を身につけるために重要な科目である。専門Ⅰ群科目のうち、本学科での学びの基本となる8科目を生物科学科目としている。
- ④ 専門Ⅱ群科目には、専攻に分かれる3年次に専門領域の理解を深めるための科目を配置している。各専攻に対応する科目群として植物昆虫科学科目5科目、応用微生物科目5科目、計算生物科目4科目の計14科目で構成する。
- ⑤ 専門選択科目には、専門的視野を広げ、主に専攻分野以外の自然科学・科学技術等について幅広い知識や技能を身につけるための科目を配置している。

【生命医科学科】

専門教育科目は、①必修科目、②基礎科目、③専門Ⅰ群科目、④専門Ⅱ群科目、⑤専門選択科目の科目区分で構成される。そのうち、③専門Ⅰ群科目には、発生再生Ⅰ群科目、生命医科学Ⅰ群科目、医工学Ⅰ群科目、神経科学科目、④専門Ⅱ群科目には、発生

再生Ⅱ群科目、生命医科学Ⅱ群科目、医工学Ⅱ群科目の区分を設けている。

- ① 必修科目は、生命科学に必須の基礎知識及び専門知識を身につけ、さらに応用力を養う科目からなり、学年進行に伴って基礎から専門性が増していくように配置する。1年次には、生命科学の基礎知識を養う科目に加え、生命科学の研究に必要な基本的な実験手技を身につける「生命科学入門実験」を配置する。生命科学の基礎的な知識と実験手技を養うために、2年次の実験科目には、より専門性が高い「基礎医科学実験Ⅰ」、「基礎医科学実験Ⅱ」を配置する。3年次の実験科目には、より専門的知識と技術を養うため、「先端医科学実験Ⅰ」、「先端医科学実験Ⅱ」を配置する。
- ② 基礎科目には、生命を扱う上で大切な倫理観を養う科目、生物学、数学、物理学、化学等の生命医科学科に共通する基礎的な知識を養う科目、データ解析や統計処理に必要な数学系の科目、コンピュータ科目を配置する。主に1年次に配置する。
- ③ 専門Ⅰ群科目は、生命医科学科における基本的な知識や技能を身につけるための科目で構成されている。各専攻に共通する科目の他、発生再生医科学専攻、生命医科学専攻、医工学専攻に必要となる科目を科目群を設けて配置している。主に2年次に配置する。
- ④ 専門Ⅱ群科目は、各分野の高度な専門知識や技能、それらを活用するための能力を身につける科目で構成されており、主に3年次に配置する。各専攻に共通する科目の他、発生再生医科学専攻、生命医科学専攻、医工学専攻に必要となる科目を科目群を設けて配置している。4年次には、卒業研究を進める上で必要な英文専門書や研究論文の輪読・輪講によって専門知識や英語力を向上させるための「外国書講読」及び「輪講」、個々のテーマに基づく実験研究を行う「卒業実験及び演習」、調査研究を通じて研究者・高度専門職業人としての素養を身につける「卒業調査研究及び演習」を配置する。
- ⑤ 専門選択科目には、専門的視野を広げ、専攻分野以外の自然科学・科学技術等について幅広い知識や技能を身につけるための科目を配置している。

【環境応用化学科】

専門教育科目は、①必修科目、②基礎科目（数学・物理系）、③基礎科目（地学・生命・情報系）、④専門Ⅰ群科目、⑤専門Ⅱ群科目、⑥専門選択科目の科目区分で構成される。

- ① 必修科目は、1年次、2年次には化学全般の基礎知識を学ぶための科目、地球環境問題を概観し基礎的な知識を修得するための講義科目である「環境化学」、さらに化学の基礎的な技能を修得するための科目「基礎化学実験Ⅰ」、「基礎化学実験Ⅱ」

を配置する。また、3年次には、1年次、2年次で学んだ専門知識を具体的に生かせるように、地球化学、環境分析化学、無機化学、物理化学、有機化学を柱とする基礎から応用までの広範な内容を取扱い、計測・分析のための技術、機能探索のための解析技術、新物質創成のための合成技術を確実に身につけることを目的として「環境応用化学実験Ⅰ」、「環境応用化学実験Ⅱ」を配置する。これらの実験科目の履修を通じて、卒業研究へのスムーズな取組みが可能になるように多様な知識・技術の修得を図る。4年次には、卒業研究を進める上で必要な英文専門書や研究論文の輪読・輪講によって専門知識や英語力を向上させるための「外国書講読」及び「輪講」、個々のテーマに基づく実験研究を通じて研究者・高度専門職業人としての素養を身につける「卒業実験及び演習」を配置する。

- ② 基礎科目（数学・物理系）には、化学を基盤として地球環境を対象とする様々な課題に取り組むために不可欠な、数学、物理学を含めた自然科学の基礎的な知識を修得する科目を配置する。
- ③ 基礎科目（地学・生命・情報系）には、化学を基盤として地球環境を対象とする様々な課題に取り組むために不可欠な、地学、生命科学、情報科学の基礎を修得するための基礎的な科目を配置する。
- ④ 専門Ⅰ群科目は、2年次の科目として、環境を対象とした化学を幅広く学びつつ、専門領域の理解を深めるための科目を配置する。専門Ⅰ群科目に配置されている科目はいずれも化学的な視点から、地球環境の計測・評価、多様な物質が潜在する機能の探索、地球環境に配慮した新しい物質創成を行うために必要な基礎的な素養を身につけるために重要な科目である。
- ⑤ 専門Ⅱ群科目は、基礎科目で学んだ知識を定着させ、より専門的な物理系科目、有機系科目及び環境応用化学実験へのスムーズな移行を図るための科目を配置し、これまでに学んだ知識を確実なものにする。また、より広範な専門領域の理解を深めるための科目を配置し、環境分析・地球化学、機能探索、物質創成に関する3分野を横断的に展開し、これらを有機的に結びつけることができるようにする。
- ⑥ 専門選択科目には、専門的視野を広げ、主に専攻分野以外の自然科学・科学技術等について幅広い知識や技能を身につけるための科目を配置している。

5 教員組織の編成の考え方及び特色

生命環境学部では、生命環境学部の理念・目的に賛同し、キリスト教主義教育に理解があり、環境と生命の共生を意識し、自然科学の教育と研究にバランスよく注力できる人材を求める教員像としている。教育者としては、先端的研究の実践を通して学生の学修意欲を高め、研究者・技術者として自立して活躍できるように適切に指導し、学生の

成長を喜びとして誇りと情熱をもって教育に取り組むこと、また研究者としては、専門分野において意欲的に先端的研究を行って科学技術の発展に貢献し、学界や国際社会から高い評価を受けることが求められる。

各学科において、大学設置基準が定める必要専任教員数及び教授数を満たす教員組織を編成することは当然ながら、各学科の理念・目的、養成する人材像、専門分野及び体系的な教育課程を実現するために十分な教員組織を編成する。

教員組織の編成方針は、各学科の核となる科目について研究領域において十分な研究業績を有している専任教員が担当すること、質の高い教育を実現するために各学科の研究分野を専門とする教員を適切に配置すること、実験や演習に任期制教員を配置すること、総合的英語コミュニケーション能力を育成するためにネイティブの教員を積極的に配置することである。

本学専任教員の定年は65歳、教授の資格を有する者の定年は68歳となっている（資料2「教職員定年に関する規程」参照）。

各学科の教員組織は次のとおりである。

【生物科学科】

本学科の教員組織は、学科の特色及び入学定員を考慮した教員組織となっている。全教員が現在、理工学部生命科学科及び理工学部生命医化学科の専任教員であり、開設と同時に本学科に移籍する。本学科では、61名の入学定員に対して、大学設置基準が定める必要専任教員数8名を上回る教員を配置している。

別記様式第3号（その3）「専任教員の年齢構成・学位保有状況（生物科学科）」に示すとおり、全教員が博士学位を有しており、いずれも本学科の教育研究を推進するにふさわしい業績と能力を有する研究者である。また、専任教員の年齢構成も、バランスに配慮し教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がない構成としている。本学科には、定年を越えて在籍する専任教員はいない。

専門教育科目は必修科目、基礎科目、専門Ⅰ群科目、専門Ⅱ群科目ともに専任教員の専門と合致した教員を配置している。特に、本学科の核となる植物昆虫科学、応用微生物学、計算生物学の各専攻の科目は、当該科目を担当するにふさわしい十分な専門性を有した専任教員が担当する。これらの専任教員の他に、実験系研究室には任期制教員を配置し、学生1人1人に行き届いた細やかな教育や研究指導を行う。各研究領域で十分な研究実績をもつ専任教員が科目を担当することにより、効果的な教育・研究を実践することが可能である。また、「生命分子・生化学実験」、「細胞・組織学実験」、「先端生命科学実験Ⅰ」、「先端生命科学実験Ⅱ」、「卒業実験及び演習」等の実験科目については、任期制教員と協力して教育研究指導を丁寧に行うこととし、これを教育研究の特色の1つとする。

【生命医科学科】

本学科の教員組織は、学科の特色及び入学定員を考慮した教員組織となっている。本学科では、84名の入学定員に対して、大学設置基準が定める必要専任教員数9名を上回る教員を配置している。全教員が現在、理工学部生命医化学科または理工学部生命科

学科の教員であり、新学科の開設と同時に本学科に移籍する。これらの教員が新学科の中核として教育研究活動を先導する。

別記様式第3号(その3)「専任教員の年齢構成・学位保有状況(生命医科学科)」に示すとおり、全教員が博士学位を有しており、いずれも本学科の教育研究を推進するにふさわしい業績と能力を有する研究者である。また、専任教員の年齢構成も、バランスに配慮し教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がない構成としている。本学科には、定年を越えて在籍する専任教員はいない。

専門教育科目は必修科目、基礎科目、専門Ⅰ群科目、専門Ⅱ群科目ともに専任教員の専門と合致した教員を配置している。特に、本学科の核となる発生再生医科学、生命医科学、医工学分野の科目には、当該科目を担当するにふさわしい十分な専門性を有した専任教員が担当する。このうち、実験系研究室にはそれぞれ任期制教員を配置し、学生1人1人に行き届いた細やかな教育や研究指導を行う。また、実験系研究室の教員は共同研究を通じて協働することにより、お互いの教育と研究の発展を図る。上述のように各研究領域で十分な研究実績をもつ専任教員が科目を担当することにより、効果的な教育・研究を実践することが可能である。また、「生命科学入門実験」、「基礎医科学実験Ⅰ」、「基礎医科学実験Ⅱ」、「先端医科学実験Ⅰ」、「先端医科学実験Ⅱ」、「卒業実験及び演習」、「卒業調査研究及び演習」等の実験科目については、任期制教員と協力して教育研究指導を丁寧に行うこととし、これを教育研究の特色の1つとする。

【環境応用化学科】

本学科の教員組織の特徴は、学科の特色及び入学定員を考慮した教員組織となっていることである。全教員が現在、理工学部環境・応用化学科の専任教員であり、開設と同時に本学科に移籍する。本学科では、83名の入学定員に対して、大学設置基準が定める必要専任教員数9名を上回る専任教員を配置している。

別記様式第3号(その3)「専任教員の年齢構成・学位保有状況(環境応用化学科)」に示すとおり、全教員が博士学位を有しており、いずれも本学科の教育研究を推進するにふさわしい業績と能力を有する研究者である。また、専任教員の年齢構成も、バランスに配慮し教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がない構成としている。本学科には、定年を越えて在籍する専任教員はいない。

専門教育科目は必修科目、基礎科目、専門Ⅰ群科目、専門Ⅱ群科目ともに専任教員の専門と合致した教員を配置している。特に、本学科の核となる科目には、特に当該科目を担当するにふさわしい十分な専門性を有した専任教員が担当する。これらの専任教員の他に、実験系研究室には任期制教員を配置し、学生1人1人に行き届いた細やかな教育や研究指導を行う。上述のように各研究領域で十分な研究実績をもつ専任教員が科目を担当することにより、効果的な教育・研究を実践することが可能である。また、「基礎化学実験Ⅰ」、「基礎化学実験Ⅱ」、「環境応用化学実験Ⅰ」、「環境応用化学実験Ⅱ」、「卒業実験及び演習」等の実験系科目については、任期制教員と協力して教育研究指導を丁寧に行うこととし、これを教育研究の特色の1つとする。

6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(1) 授業方法、履修指導方法（共通）

生命環境学部における授業科目は、総合教育科目と専門教育科目に大別され、総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目から構成され、専門教育科目は各学科が生命環境学部の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）に沿って設定した各科目群によって構成されている。

教養教育は総合教育科目で行われ、低年次に配置している。卒業に必要な単位数の4分の1を総合教育科目として履修するように設定し、社会の要請に応えられる人材の育成をめざしている。その中で、建学の精神を具現するのに欠くことのできないキリスト教科目4単位と、国際性を養うための英語教育科目12単位は必修としている。

専門教育科目は初年次から段階を踏んで、基礎を重視しつつ基礎の発展となる応用のバランスを取っていく体系的な教育課程を組んでいる。専門Ⅰ群科目、専門Ⅱ群科目となるに従い、分野の専門性が高くなる。さらに、教育課程全体としては、大学設置基準第27条第2項に基づき1単位あたりの学修時間45時間を勘案し、各授業科目の配当年次や履修要件の適正な設定によって、過剰な履修登録等の単位の空洞化につながることをないよう配慮をしている。

卒業研究に関する科目は「外国書講読」、「輪講」、「卒業実験及び演習」を設けており、一定の進級条件を満たした者を対象に4年次に行われる。生命医科学科は「卒業実験及び演習」にかえて「卒業調査研究及び演習」を履修することができる。「外国書講読」は、サイエンスの共通言語である英語の専門書や国際誌に掲載された論文を理解し、それを他の人にわかりやすく説明できるようになることを目的としている。所属する研究室に応じて、卒業研究に関連するテーマについて、英語の書籍や雑誌の記事を読んで理解し、内容を発表し討論する。「輪講」は書籍や文献に含まれている情報を深く理解すると同時に、内容を整理しまとめて発表し、有意義な討論を行うことを目的とする。所属する研究室に応じて、卒業研究のテーマに関連した書籍や文献の中から適当な題材を選び、輪講形式でその内容を順次紹介する。「卒業実験及び演習」は、受講学生が1つの研究室に所属し、研究室の一員として最先端の研究に直接参加する。各学生が決められた研究テーマについて、指導教員と相談しながら計画を立て、自らの手で研究を進め、期間内に研究目標を達成する能力を養う。生命医科学科で行われる「卒業調査研究及び演習」は医学系のデータや文献を分析し、その結果を基に考察する。研究成果は卒業研究発表会で発表し、最終的に卒業論文としてまとめる。研究テーマへの取組みや卒業論文の内容等を総合的に判断して評価を行う。大学設置基準第21条第3項に照らし、学修の成果の評価及び必要な学修等を考慮し、「卒業実験及び演習」については8単位、「卒業調査研究及び演習」については4単位を授与する。

生命環境学部では、授業科目の履修指導を学科全体と学生個別に行う。学科全体の履修指導は、生命環境学部で作成する『授業科目履修心得』なる冊子に基づいて、新入生や新2年次生・新3年次生を対象に行う。学生個別の履修指導については、各学生を担当する教員を定める担任制度により、担任となる教員が成績表を学生本人に渡す際に行う。その際には、修得単位数、学生が授業科目の順次性や体系性を具体的に捉えることができるような履修モデル、履修した科目の成績評価の加重平均であるGPA等のデータ

も参考にする。

以下、学科ごとに①教育方法、②卒業要件及び履修科目の年間登録上限（CAP 制）の詳細を述べる。

(2) 授業方法、履修指導方法（学科別詳細）

【生物科学科】

① 教育方法

生物科学科では、生物機能の活用を通じて再生・共生型社会の構築に貢献するため、植物昆虫科学、応用微生物学、計算生物学を基礎として生命のしくみを理解するとともに、生命を分子レベルで分析・評価するための知識や技術を身につけ、グローバルに活躍できる人材の育成をめざしている。そのため、自然科学の基礎を確実に身につけさせ、知識の土台作りを行った後、幅広い知識と深い専門性の修得のため専門教育科目を教育する。また、国際社会でコミュニケーションを図るために必要不可欠な英語力の向上のため、英語教育にも力を入れる。

1年次には、基礎知識・技術を修得するためのカリキュラムが組まれている。1年次より、生物学全般の基礎を広範に学ぶため「生命科学Ⅰ」、「生命科学Ⅱ」、「生命科学入門実験」を必修科目として履修する。また、生物学に必要となるコンピュータの基礎知識とプログラミングの基礎を、同じく必修科目の「コンピュータ演習A」で学ぶ。分子レベルからの生命の理解には、生物学ばかりでなく数学、物理学、化学等の基礎知識も必要である。そこで、生物学系科目に加え数学、物理学、化学系の科目を基礎科目として開講し、これらを履修させ、より専門的な科目に進む前の基礎学力を十分に養う。

2年次には、1年次に修得した基礎知識・技術を土台として、専門Ⅰ群科目により、専門分野の基礎知識をさらに深める。また、必修科目として「生命分子・生化学実験」、「細胞・組織学実験」を配置し、3年次からの発展的な実験・実習に向けての実験技能を身につける。3年次から分かれる3専攻である植物昆虫科学、応用微生物学、計算生物学に関連する科目をバランスよく配置しており、生物科学に関わる幅広い領域が効果的に学修できるようになっている。

3年次には、植物昆虫科学専攻、応用微生物学専攻、計算生物学専攻に分かれ、広範で専門性の高い科目を専門Ⅱ群科目から履修する。また、専門性の高い知識を技術として生かせるように、必修科目として「先端生命科学実験Ⅰ」、「先端生命科学実験Ⅱ」の実験科目を履修する。これらの実験科目を通じて、生物機能の活用に関する知識・技術を深めることが可能になる。

4年次には、1つの研究室に所属し、卒業研究を行う。学生は、個々の研究テーマに関する実験に取り組み、その研究を通じて、実際に研究を行うために必要な知識・技術の修得と課題を解決するために必要な能力を養う。また、卒業研究発表会を通じて、研究成果を適切にまとめる能力とその内容を正確に伝えるためのプレゼンテーション能力を養う。卒業研究に関連した英文専門書や研究論文の輪読・輪講を行い、専門知識を深めるとともに、英語の読解力やプレゼンテーション力を養う。本学科における具体的な履修方法については、資料3「生命環境学部生物科学科履修モデル」に

例示する。

② 卒業要件及び履修科目の年間登録上限（CAP 制）

卒業必要単位数 128 単位を以下の（1）（2）の要件を満たして履修する。

（1）総合教育科目から 32 単位以上を修得する。

ただし、キリスト教科目 4 単位、英語教育科目 12 単位を含む。

（2）専門教育科目から以下の①から⑤の要件を満たした上で、合計 96 単位以上を修得する。

① 必修科目から 42 単位を修得する。

② 基礎科目から 16 単位以上を修得する。

③ 専門Ⅰ群科目から 16 単位以上を修得する。

ただし、生物科学科目から 8 単位以上を含む。

④ 専門Ⅱ群科目から 10 単位以上を修得する。

ただし、植物昆虫科学専攻は植物昆虫科学科目より 6 単位以上、応用微生物学専攻は応用微生物科目より 6 単位以上、計算生物学専攻は計算生物科目より 4 単位以上を含む。

⑤ 専門選択科目から 12 単位以上を修得する。

ただし、卒業必要単位数を超えて修得した基礎科目、専門Ⅰ群科目、専門Ⅱ群科目及び理学部・工学部・生命環境学部開講の専門教育科目の単位を算入することができる。

個々の授業科目に対する学生の十分な事前・事後の学修時間を確保するため、また、各年次にわたって適切に授業科目を履修させるため、履修科目の年間登録の上限（CAP）を年間 49 単位（前期 25 単位・後期 24 単位）に定めている。

【生命医科学科】

① 教育方法

生命医科学科では、生命科学を基礎医学・薬学・医工学分野に応用するために、生命科学の知識を体系的に修得し、その上で基礎医学系分野の知識も兼ね備えた人材の養成をめざす。そのために、医科学を基盤に生命科学の基礎知識を確実に身につけさせ、その上で専門教育科目を教える。また、生命科学は数学や物理学、化学をはじめとする基礎分野の上に成り立っているため、生命科学だけでなく数学や物理学、化学をはじめとする広い分野の基礎知識も身につけさせる。特に医工学分野をめざす学生には、数学を重視する。サイエンスの共通言語は英語であるため、また国際化社会に対応するために英語教育にも力を入れる。

1 年次には、基礎を確実に修得することを重視する。「生命科学Ⅰ」、「生命科学Ⅱ」や「基礎生化学」をはじめとする生命科学の基礎を履修する。生命科学の発展には実験が極めて重要な位置を占めるため、生命科学の実験の基礎として「生命科学入門実験」を履修する。また、医工学分野のために、「コンピュータ演習 A」や「生物統計学」を履修する。生命科学に関わる人材は生命に対する健全な倫理観を身につけ

ている必要があるため、「生命科学倫理」を履修する。以上により、生命医科学科は1年次から、発生再生医科学専攻、生命医科学専攻、医工学専攻に分かれるが、全ての専攻で生命科学をはじめとする広い基礎知識や倫理観を修得するものとし、全専攻で共通の教育を行う。

2年次には、1年次に修得した基礎の上に、生命科学、基礎医学、発生再生医学、医工学の専門的な科目を履修する。発生再生医科学、生命医科学、医工学の3分野に関連する科目を配置しており、発生再生医科学専攻では「発生生物学」と「細胞学」、生命医科学専攻では「薬理学」と「生理学」、医工学専攻では「データ科学演習」と「化学概論」を中心に専門性を増した科目を履修する。また、全専攻で「基礎医科学実験Ⅰ」、「基礎医科学実験Ⅱ」を履修する。以上により、生命科学の専門的な知識と実験手技を修得する。

3年次には、より専門化した科目を履修する。発生再生医科学専攻では「再生医学」、「ゲノム・エピゲノム医学」と「器官形成学」、生命医科学専攻では「発がん分子機構学」、「ストレス応答学」と「免疫学」、医工学専攻では「医学統計学」、「生命工学Ⅰ」と「生命工学Ⅱ」を中心に履修する。また、全専攻で「先端医科学実験Ⅰ」と「先端医科学実験Ⅱ」を履修し、基礎医学の専門的な実験手技を修得する。

4年次には、「卒業実験及び演習」または「卒業調査研究及び演習」を選択し、卒業研究を行う。「卒業実験及び演習」においては、各研究室の専門分野に従ってテーマを定め、課題を解決するべく実験科学研究を行い、「卒業調査研究及び演習」では医科学研究分野（発生再生医科学、生命医科学、医工学）の特定分野に従ってテーマを定め、課題を解決するべく調査研究を行う。これらの卒業研究により、研究を行うために必要な知識・技術の修得と課題を解決するために必要な能力を養う。また、卒業研究発表を通じて、研究成果を適切にまとめる能力とその内容を正確に伝えるためのプレゼンテーション能力を養う。

「外国書講読」では、サイエンスに取り組むにあたって必要な英語の専門用語を身につけ、また論文の読解力や英語でプレゼンテーションを行う能力を養う。また、「輪講」では、各卒業研究テーマに沿った専門書を使って専門知識を学ぶ。本学科における具体的な履修方法については、資料4「生命環境学部生命医科学科履修モデル」に例示する。

② 卒業要件及び履修科目の年間登録上限（CAP制）

卒業必要単位数 128 単位を以下の（1）（2）の要件を満たして履修する。

（1）総合教育科目から 32 単位以上を修得する。

ただし、キリスト教科目 4 単位、英語教育科目 12 単位を含む。

（2）専門教育科目から以下の①から⑤の要件を満たした上で、合計 96 単位以上を修得する。

① 必修科目から 28 単位を修得する。

② 基礎科目から 16 単位以上を修得する

③ 専門Ⅰ群科目から 16 単位以上を修得する。

ただし、発生再生医科学専攻は発生再生Ⅰ群科目・神経科学科目より、生命医

科学専攻は生命医科学Ⅰ群科目・神経科学科目より、医工学専攻は医工学Ⅰ群科目・神経科学科目よりそれぞれ4単位以上を含む。

④ 専門Ⅱ群科目から20単位以上を修得する。

ただし、以下のとおり定められた単位を含む。

- 1) 発生再生医科学専攻は発生再生Ⅱ群科目より、生命医科学専攻は生命医科学Ⅱ群科目より、医工学専攻は医工学Ⅱ群科目よりそれぞれ4単位以上を含む。
- 2) 「卒業実験及び演習」もしくは「卒業調査研究及び演習」を修得する。

⑤ 専門選択科目から16単位以上を修得する。

ただし、卒業必要単位数を超えて修得した基礎科目、専門Ⅰ群科目、専門Ⅱ群科目及び理学部・工学部・生命環境学部開講の専門教育科目の単位を算入することができる。

個々の授業科目に対する学生の十分な事前・事後の学修時間を確保するため、また、各年次にわたって適切に授業科目を履修させるため、履修科目の年間登録の上限(CAP)を年間49単位(前期25単位・後期24単位)に定めている。

【環境応用化学科】

① 教育方法

環境応用化学科では、地球環境問題に関連する多様な課題に対して化学を基軸としたアプローチによって柔軟に取り組む、国際的に活躍できる人材の育成をめざしている。そのため、自然科学の基礎を確実に身につけさせ、知識の土台作りを行った後、幅広い知識と深い専門性の修得のため専門教育科目を教育する。特に、原子・分子レベルから地球スケールまでの広範な対象を取扱う環境化学分野の理解には、化学ばかりでなく数学、物理学、地学等の基礎知識も必要である。そこで、数学・物理系科目や地学・生命・情報系科目を複数開講し、これらを選択必修科目として履修させる。また、国際社会でコミュニケーションを図るために必要不可欠な英語力の向上のため、英語教育にも力を入れる。

1年次には、基礎知識・技術を修得するためのカリキュラムが組まれている。化学全般の基礎を広範に学ぶため「基礎化学A」、「基礎化学B」、「基礎化学C」を履修する。また、地球環境問題に関する基礎的な知識を修得するため「環境化学」を開講する。これらの科目の履修によって得られる知識に加えて実験を通じた知識・技術の修得も重要であり、化学系の実験の基礎として「基礎化学実験Ⅰ」、「基礎化学実験Ⅱ」を履修する。さらに、化学系周辺領域の理解のために必須となる自然科学や情報系の基礎知識・技術の修得のため、数学、物理学、生物学、情報科学等を履修し、専門科目に進む前の基礎学力を十分に養う。

2年次には、1年次に修得した基礎知識・技術を土台として基礎知識をさらに深めるため、自然科学系分野として物理学系の科目、数学系の科目、地学系の科目を履修する。また、2年次からは専門分野の科目の履修が始まる。「有機構造論」、「地球環境化学」、「発展物理化学」等の環境分析・地球化学系、機能探索系、物質創成系

の3分野に関連する講義科目をバランスよく配置しており、地球環境・応用化学に関わる幅広い領域が効果的に学修できるようになっている。

3年次には、より広範で専門性の高い科目を履修する。基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を、「応用物理化学」、「応用有機化学」、「環境分析化学」等の講義科目を通じて修得させる。さらに専門性の高い知識を技術として生かせるように「環境応用化学実験Ⅰ」、「環境応用化学実験Ⅱ」等の実験科目を履修する。これらの実験科目を通じて各専攻分野の知識・技術を深めることが可能になる。

4年次には、1つの研究室に所属し、卒業研究を行う。学生は、個々の研究テーマに関する実験に取組み、その研究を通じて、実際に研究を行うために必要な知識・技術の修得と課題を解決するために必要な能力を養う。また、卒業研究発表会を通じて、研究成果を適切にまとめる能力とその内容を正確に伝えるためのプレゼンテーション能力を養う。卒業研究に関連した英文専門書や研究論文の輪読・輪講を行い、専門知識を深めるとともに、英語の読解力やプレゼンテーション力を養う。本学科における具体的な履修方法については、資料5「生命環境学部環境応用化学科履修モデル」に例示する。

② 卒業要件及び履修科目の年間登録上限（CAP制）

卒業必要単位数 128 単位を以下の（1）（2）の要件を満たして履修する。

（1）総合教育科目から 32 単位以上を修得する。

ただし、キリスト教科目 4 単位、英語教育科目 12 単位を含む。

（2）専門教育科目から以下の①から⑥の要件を満たした上で、合計 96 単位以上を修得する。

① 必修科目から 42 単位を修得する。

② 基礎科目（数学・物理系）から 6 単位以上を修得する

③ 基礎科目（地学・生命・情報系）から 6 単位以上を修得する。

④ 専門Ⅰ群科目から 14 単位以上を修得する。

⑤ 専門Ⅱ群科目から 16 単位以上を修得する。

⑥ 専門選択科目から 12 単位以上を修得する。

ただし、卒業必要単位数を超えて修得した基礎科目、専門Ⅰ群科目、専門Ⅱ群科目及び理学部・工学部・生命環境学部開講の専門教育科目の単位を算入することができる。

個々の授業科目に対する学生の十分な事前・事後の学修時間を確保するため、また、各年次にわたって適切に授業科目を履修させるため、履修科目の年間登録の上限（CAP）を年間 49 単位（前期 25 単位・後期 24 単位）に定めている。

7 施設、設備等の整備計画

関西学院神戸三田キャンパスは、緑豊かな自然環境と最新の教育研究設備が調和した、明るく広々とした開放的なキャンパスである。キャンパス内の建物は、キリスト教思想の下に W.M. ヴォーリズにより設計された関西学院上ヶ原キャンパスと同様に、スパニッシュ・ミッション・スタイルを採用している。

現在、理工学部・理工学研究科、総合政策学部・総合政策研究科の2学部・2研究科が設置されており、約5,500人が学んでいる。理工学部の再編により、令和3年度(2021年度)に、理学部、工学部、生命環境学部、建築学部の4学部を新たに開設する。これにより神戸三田キャンパスは、既存の総合政策学部と併せて5学部・2研究科を擁するキャンパスへと生まれ変わる。学部数は2学部から5学部になるが、新学部の完成年次における関西学院神戸三田キャンパス全体の収容定員については、20名減となる予定であり、再編後も引き続き十分な広さ及び充実した設備環境の中で、新たな学部の教育課程を支える教育研究環境を維持することができる計画である。

(1) 校地、運動場の整備計画

生命環境学部が開設される関西学院神戸三田キャンパス(261,181.00㎡)には、学生の教育・課外活動の施設として、陸上競技場(20,400㎡)、第2グラウンド(12,400㎡)、体育館(1,180㎡)がある。

学生が休息するためのスペースとして、第一厚生棟・第二厚生棟・第三厚生棟の食堂・ラウンジ部分(計1,891㎡)、「Academic Commons」ラウンジ部分(408㎡)を設けており、多くの学生がゆとりをもって休息や学生同士の交流等に利用することができるようになっている。

「Academic Commons」内には保健館(分室)・学生支援センター・カウンセリングルーム等があり、快適で健康な学生生活をバックアップしている。

(2) 校舎等施設の整備計画

各種の講義、講演会、研究会等に使用する講義室としては、II号館、IV号館、V号館、VI号館、VII号館内に設けられた教室がある。それらの講義室については、主に神戸三田キャンパスの学部が共同で利用している。時間割表を作成し、具体的な施設・設備の現時点での利用予定から、新学部の教育課程が利用予定の施設・設備において、問題なく利用できる計画であることについては、十分な検証を行った(資料6「生命環境学部時間割表」参照)。

学科ごとの施設、設備は次のとおりである。なお、具体的な配置及び面積については、本届出書6「校地校舎等の図面」の(4)「生命環境学部使用校舎の平面図」に示す。

【生物科学科】

① 研究室

専任教員には、研究分野に応じた設備等を備えた研究室を配置し、それぞれに管理運営する。その中で学部4年次生が指導教員とともに研究活動を行う。研究室には、生命現象を分子レベルから解明するため、共焦点レーザー顕微鏡やDNAの塩基配列を

解読する DNA シーケンサーをはじめとする様々な研究設備が備えられる。

加えて、任期制の講師、助教を除く専任教員には、教授室を 1 室ずつ配置する。教授室では、講義の準備、研究活動、成績配付をはじめとする学生に対する勉学上の指導や学生生活に関する指導を行う。

② 生物科学学生実験室

本学科の学生が実験を行うのに十分な広さ及び施設・装置を整えている。生物科学科の学生が解剖、顕微鏡観察、生物分析化学、遺伝学実験、生化学実験、細胞培養実験、データ解析を行うことを目的に、観察・分析・解析関連設備及び実験台を設置し、学生個別の作業スペースを確保している。本実験室は、1 年次の「生命科学入門実験」、2 年次の「生命分子・生化学実験」、「細胞・組織学実験」の実験科目の説明と作業のために主に使用する。この実験室は、生命医科学科 1 年次の「生命科学入門実験」及び 2 年次の「基礎医科学実験Ⅰ」、「基礎医科学実験Ⅱ」でも使用する。また、生物科学科 3 年次の「先端生命科学実験Ⅰ」、「先端生命科学実験Ⅱ」では、生命医科学学生実験室を使用する。4 年次の卒業研究では、指導教員とともに、「外国書講読」、「輪講」、「卒業実験及び演習」を行う。実験室には、有機溶剤や特定化学物質を扱う際に必要な局所排気装置を設置している。

生物科学学生実験室には、クリーンベンチ 9 台、CO₂ インキュベーター 2 台、インキュベーター 3 台、植物用環境インキュベーター 3 台、蛍光顕微鏡 8 台、生物顕微鏡 67 台、生物正立顕微鏡 36 台、実体顕微鏡 57 台、倒立顕微鏡 27 台、電子天秤 33 台、pH メーター 30 台、マイクロプレートリーダー 2 台、分光光度計 22 台、高速冷却遠心機 2 台、微量高速冷却遠心機 11 台、卓上遠心機 11 台、卓上型振とう恒温槽 13 台、電気泳動装置 50 台、マイクロトーム 7 台、サーマルサイクラー 11 台、フラクションコレクター 5 台、UV クロスリンカー 2 台、ヒートブロック 11 台、トランスイルミネーター 4 台、トランスプロット 10 台、オートクレーブ 3 台、乾熱滅菌器 3 台、純水装置 2 台、製氷機 2 台、超低温フリーザー 4 台、乾燥機 2 台、ノートパソコン 67 台、デスクトップパソコン 4 台等、学生が生物科学系の実験を行うのに必要な様々な設備や装置を設置する。

【生命医科学科】

① 研究室

専任教員には、研究分野に応じた設備等を備えた研究室を配置し、それぞれに管理運営する。その中で学部 4 年次生が指導教員とともに研究活動を行う。研究室には、ヒトやマウス等の高等哺乳類の遺伝子・タンパク質の機能解析・研究を行うための共焦点レーザー顕微鏡やタンパク質の解析のための質量分析計をはじめとする様々な研究設備が備えられる。

加えて、任期制の講師、助教を除く専任教員には、教授室を 1 室ずつ配置する。教授室では、講義の準備、研究活動、成績配付をはじめとする学生に対する勉学上の指導や学生生活に関する指導を行う。

② 生命医科学学生実験室

本学科の学生が主に3年次の「先端医科学実験Ⅰ」、「先端医科学実験Ⅱ」を行うことを目的に、十分な広さ及び設備・装備を整えている。この実験室は、生物科学科3年次の「先端生命科学実験Ⅰ」、「先端生命科学実験Ⅱ」でも使用する。また、生命医科学科1年次の「生命科学入門実験」及び2年次の「基礎医科学実験Ⅰ」、「基礎医科学実験Ⅱ」には、生物科学学生実験室を使用する。

生命医科学学生実験室には、クリーンベンチ6台、CO₂インキュベーター2台、ドラフトチャンパー3台、オートクレーブ2台、高速冷却遠心機1台、微量高速冷却遠心機5台、分光光度計20台、生物正立顕微鏡40台、卓上遠心機5台、電気泳動装置10台、乾燥機1台、製氷機1台、純水装置1台、デスクトップパソコン2台、ノートパソコン40台等をはじめとする、学生が生命医科学に関する実験を行うのに十分な設備や装置を設置する。

【環境応用化学科】

① 研究室

専任教員には、研究分野に応じた設備等を備えた研究室を配置し、それぞれに管理運営する。その中で学部4年次生が指導教員とともに研究活動を行う。研究室には、環境分析・地球化学系、機能探索系、物質創成系の各分野の研究活動内容に応じて様々な実験設備が備えられており、加えてパソコンやプレゼンテーション機器の設置やLAN等の構築がなされ、学生個別の作業スペースも確保されている。また、有機溶剤や特定化学物質を扱う際に必要な局所排気装置を設置している。

加えて、任期制の講師、助教を除く専任教員には、教授室を1室ずつ配置する。教授室では、講義の準備、研究活動、成績配付をはじめとする学生に対する勉学上の指導や学生生活に関する指導を行う。なお、環境応用化学科の専任教員の教授室のうち5室については、研究室内に教授室を用意する。

② 環境応用化学学生実験室

環境応用化学科の学生が地球化学、環境分析化学、無機化学、物理化学、有機化学、高分子化学を基盤とする物質の分析評価・機能探索・創成に関する実験を行うことを目的に、合成・分析・解析関連設備及び実験台を設置し、学生個別の作業スペースを確保している。本実験室は、1年次の「基礎化学実験Ⅰ」、「基礎化学実験Ⅱ」、2年次の「地球環境科学実験」、3年次の「環境応用化学実験Ⅰ」、「環境応用化学実験Ⅱ」の実験科目の授業のために主に使用する。実験室には、有機溶剤や特定化学物質を扱う際に必要な局所排気装置を設置している。また、各種実験の運用に必要な分光光度計、偏光顕微鏡、原子吸光分析装置、GPC、ガスクロマトグラフィー、エバポレーター、マグネチックスターラー、乾燥機、電気炉、冷蔵庫、冷凍庫、製氷機、乾燥機等を設置する。

(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

生命環境学部の学生が主として利用する図書館は、VI号館内の2階、3階、4階部分

にある「関西学院神戸三田キャンパス図書メディア館（以下、「図書メディア館」）」である。図書メディア館は、授業期間中は、平日は 8 時 50 分から 22 時まで、土曜日は 8 時 50 分から 18 時 30 分まで、日曜日は 12 時から 18 時まで利用可能である。

生命環境学部関係の図書資料は図書メディア館に集中配備されており、図書約 41,015 冊、雑誌約 208 タイトルを所蔵している（令和 2 年（2020 年）4 月現在）（資料 7「生命環境学部生物科学科関係研究雑誌一覧」、資料 8「生命環境学部生命医科学科関係研究雑誌一覧」、資料 9「生命環境学部環境応用化学科関係研究雑誌一覧」参照）。

なお、関連分野の図書資料については、210 万冊の収容力を有する西宮上ヶ原キャンパスにある関西学院大学図書館の資料を神戸三田キャンパスに取寄せて同時に利用することもできるため、十分な資料を確保することができる。また、学内のパソコンからオンラインでアクセスできるデジタル資料については、電子ジャーナル約 45,000 タイトル、電子ブック約 44,000 タイトル、Web データベース約 200 種が用意されている。これら関連分野の図書資料については、今後一層の充実を図る予定である。

設備面においては、図書メディア館内に自学自習用パソコン 120 台、グループワーク用学習室 2 室を含むメディア・フォーラムを併設しており、図書資料の利用に加えてグループディスカッション、プレゼンテーション準備等に活用されている。

図書メディア館のカウンターでは、図書の貸出サービス、他大学との相互利用を扱うレファレンスサービスに加えて、PC 利用相談窓口を設けてノートパソコンの貸出を行うとともに、ネットワーク接続や各種アプリケーション利用についての十分なサポートを行っている。なお、図書メディア館は図書資料の収容力 40 万冊、座席数 528 席（全席無線 LAN 対応）を保有しており、完成年度に向けて十分な学修、研究スペースを提供することができる。

8 入学者選抜の概要

(1) 学生受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、各学科の学生受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を次のように定める。

【生物科学科】

生物科学科は、生物機能の活用を通じて再生・共生型社会の構築に貢献するため、生物学を基礎として生命のしくみを理解するとともに、生命を分子レベルで分析・評価するための知識や技術を身につけ、高い倫理観をもってグローバルに活躍できる人材の育成をめざしている。そのため、生物科学ばかりでなく、数学、物理学、化学の基礎を確実に身につけさせ、知識の土台作りを行った後、幅広い知識と深い専門性の修得のため専門教育科目を教育する。また、国際社会でコミュニケーションを図るために必要不可欠な英語力の向上のため、英語教育にも力を入れる。以上の人材養成の目的に沿って、生物科学科では以下のような学生を求める。

- ① 生物科学科の各専攻分野と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、各専攻分野の発展を通じて、再生・共生型社会の構築に貢献しようとする学生
- ② 生物学に加え、数学、物理学、化学の体系的・構造的な理解に基づき、各専攻についての知識や技能を多角的な視点をもって修得しようとする学生
- ③ 自然科学に関する基礎知識や技能、また日本語及び英語の基礎学力を基に、コミュニケーション能力、論理的思考力、情報収集力、表現力の向上に努める学生
- ④ 各専攻分野において現代社会における課題を見出し、健全な倫理観をもって課題を解決する能力を身につけようとする学生

【生命医科学科】

生命医科学科は、生命科学の確固たる知識に加え、基礎医学、薬学、医工学分野やデータサイエンスに関連した知識を兼ね備え、健全な倫理観をもってヒトの健康に関わる基礎医学系分野で活躍し、ライフイノベーションに資する人材を育成することを使命としている。生命科学を基礎医学系分野に応用するためには、まず生命科学の知識を確実に修得した上で基礎医学系分野の知識も兼ね備えている必要がある。生命科学の確実な知識を修得するためには、その基礎となる数学や物理学、化学をはじめとする基礎科目の知識を身につけている必要がある。また、医工学や医学系情報学分野の知識も養い、実験系分野で得られた成果を基礎医学系分野に効率的に応用できる人材の養成をめざす。さらに、ヒトの健康維持や疾病の治療に関わる分野で活躍する人材は、生命に関する健全な倫理観をもっている必要がある。以上の人材養成の目的に沿って、生命医科学科では以下のような学生を求める。

- ① 生命科学を生命医科学科の各専攻分野に応用し、ヒトの健康の維持や疾病の治療等、ライフイノベーションに貢献しようとする学生
- ② 数学や物理学、化学等、基礎科目も含め、生命科学及び各専攻分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生
- ③ 人文・社会系科目の基礎学力を有し、多角的な視点と生命に関する健全な倫理観を意欲的に身につけようとする学生
- ④ 日本語及び英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生

【環境応用化学科】

環境応用化学科は、地球環境問題に関連する多様な課題に化学的な視点から柔軟に取り組み、国際的に活躍できる人材を養成することを使命としている。そのため、自然科学の基礎を身につけて知識の土台作りを行った後、幅広い知識と深い専門性を修得できる教育研究の実践が必要である。特に、原子・分子レベルから地球スケールまでの広範な対象を取扱う環境応用化学分野の理解には、化学ばかりでなく数学、物理学、地学等の基礎知識の修得も必要となる。以上の人材養成の目的に沿って、環境応用化学科では以下のような学生を求める。

- ① 物質と人間生活や地球環境との関わりに幅広い関心を抱き、化学的な視点からグリーンイノベーションに代表される地球環境問題の解決に貢献しようとする学生
- ② 自然科学の基礎学力を十分に有し、地球環境化学・応用化学分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生
- ③ 修得した専門的知識・技能を応用に発展させる柔軟な思考力と知識を養い、新しい課題に取り組むことのできる能力と、成果を発信するコミュニケーション能力の修得に努めようとする学生
- ④ 科学技術と地球環境との調和を重視した高い倫理観をもった学生

(2) 入学定員及び収容定員

生命環境学部の入学定員及び収容定員は以下のとおりである。

	入学定員	収容定員
生物科学科	61名	244名
生命医科学科	84名	336名
環境応用化学科	83名	332名
生命環境学部 全体	228名	912名

(3) 選抜方法

学生受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を踏まえ、生命環境学部各学科の入学定員を充足する適切な入学者を継続的に確保するため、次のような方法で入学者を選抜する。

生命環境学部の入学試験として、一般選抜入学試験と各種入学試験を設ける。一般選抜入学試験（入学定員の63%）においては全学日程、関学独自方式日程と大学入学共通テストを利用する入学試験を実施する（資料10「一般選抜入学試験選抜方法（生命環境学部）」参照）。各種入学試験では、様々な入試形態を整えることにより、学生受入れの方針（アドミッション・ポリシー）の下、多様な学生を受け入れる（資料11「各種入学試験選抜方法（生命環境学部）」参照）。各種入学試験のうち、学校推薦型選抜（入学定員の33%）では、高等学校との相互理解の下、関西学院高等部推薦入学試験、関西学院千里国際高等部推薦入学試験、継続校推薦入学試験、提携校推薦入学試験、系属校推薦入学試験、協定校推薦入学試験、指定校推薦入学試験を実施する。総合型選抜（入学定員の4%）では、グローバルサイエンティスト・エンジニア入学試験、スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験を実施する。また、世界的な課題に挑み解決へと導く「強さと品位」をもったグローバルリーダーとなることのできる素養をもつ生徒を受け入れるために、従来のA0入学試験・公募推薦入学試験に代えて、学部特別選抜入学試験、総合選抜入学試験を実施する。学部特別選抜入学試験は、本学部を第一志望とする強い意欲をもつ者を対象に、書類審査、筆記試験、面接審査を組み合わせ、総合的に判定する入学試験である。総合選抜入学試験では、多面的・多元的に学力の3要素の評価を実施する。特に高等学校の学びにおける「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の経験や成果に着目し、各学部の教育を受けるにふさわしい能力ならびに学びに向かう力を総合的に評価する選抜を実施する。また、探究活動（課題研究）を評価する入学試験

として、SGH 対象入学試験、SSH 対象入学試験、探究（課題研究）評価型入学試験を実施する。区分外としては、UNHCR 難民高等教育プログラムによる推薦入学試験、ミャンマーからの留学生を対象とする推薦入学試験、帰国生徒入学試験、外国人留学生入学試験を実施する。

(4) 選抜体制

関西学院大学入学試験規程において、入学試験に関する大綱を審議決定するため入学試験委員会を設置することとしており、学長が入試委員長を務め、入学試験に関する大綱を定めている。入学試験委員会の下に入学試験に関する業務を計画・実施するため、①出題・採点委員会、②入学試験実行委員会、③各種入学試験実行委員会、④各種入学試験出題・採点委員会、⑤スポーツ能力に優れた者を対象とした特別選抜入学試験審査委員会、⑥グローバル入学試験審査委員会の各委員会を置いている。一般選抜入学試験は、全学体制で実施されている。ただし、入学者選抜における入学者の決定、可否の判定は、教授会規程に定めのあるとおり、各学部教授会において議決する。出題・採点委員会については、中立・公正に実施することを旨として、入試問題の漏洩等、入学者選抜の信頼性を損なう事態が生ずることのないよう、学長を中心として責任体制の明確化、入試担当教職員の選任における適格性の確保、研修の実施等、体制の充実を図っている。学校推薦型選抜及びその他の入学試験は、各委員会の下、生命環境学部が中心となって選抜を行う。スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験は、全学で実行される書類審査、小論文の評価を経て、また、グローバルサイエンティスト・エンジニア入学試験、総合選抜入学試験、帰国生徒入学試験は、高大接続センターによる出願資格等の確認を経て、その後の選考を生命環境学部において実施する。また、外国人留学生入学試験、UNHCR 難民高等教育プログラムによる推薦入学試験、ミャンマーからの留学生を対象とする推薦入学試験については国際連携機構による出願資格等の確認を経て、その後の選考を生命環境学部において実施する。外国人留学生入学試験については 日本学生支援機構の日本留学試験（日本語、理科、数学）の結果を判定に利用している。英語については TOEFL 等の検定試験結果を利用し、過年度生におけるこれらの試験結果と入学後の成績との相関を確認しながら一定水準の志願者選考を行っている。経費支弁能力については、出願時に留学費用の支弁方法についての書類を提出させ確認を行う。さらに、入学後にも支弁能力に関する書類を改めて提出させ確認し、入学後の個別面談の際の資料としている。

事務組織としては、学内に高大接続センターを置き、高等学校との連携を主に担当する高大連携課と、入学試験実行、入学試験改革、入学試験広報、出題採点業務を主に担当する入試課が設置されている。

以上のような選抜体制の下、入学者の選抜を公平かつ確実に実施し、生命環境学部各学科の入学定員を充足する適切な入学者を継続的に確保する。

9 取得可能な資格

生命環境学部の各学科で取得可能な主な資格は以下のとおりである。

【生物科学科】

資格名称	資格の種類・教科	取得のための要件
中学校教諭 1 種免許	国家資格・理科	卒業要件単位に含まれる科目の他、教職関連科目の履修が必要。資格取得が修了の必須条件ではない。
高等学校教諭 1 種免許	国家資格・理科	卒業要件単位に含まれる科目の他、教職関連科目の履修が必要。資格取得が修了の必須条件ではない。

【生命医科学科】

資格名称	資格の種類・教科	取得のための要件
中学校教諭 1 種免許	国家資格・理科	卒業要件単位に含まれる科目の他、教職関連科目の履修が必要。資格取得が修了の必須条件ではない。
高等学校教諭 1 種免許	国家資格・理科	卒業要件単位に含まれる科目の他、教職関連科目の履修が必要。資格取得が修了の必須条件ではない。

【環境応用化学科】

資格名称	資格の種類・教科	取得のための要件
中学校教諭 1 種免許	国家資格・理科	卒業要件単位に含まれる科目の他、教職関連科目の履修が必要。資格取得が修了の必須条件ではない。
高等学校教諭 1 種免許	国家資格・理科	卒業要件単位に含まれる科目の他、教職関連科目の履修が必要。資格取得が修了の必須条件ではない。

10 管理運営

生命環境学部は、生物科学科、生命医科学科、環境応用化学科の3学科より組織される。本学学則に基づき、生命環境学部教授会を置く。教授会は学部長を中心に、教授、准教授、助教及び専任講師（任期制教員を除く）で構成され、原則として月1回開催する。全員の3分の2以上の出席をもって成立し、議事はその出席者の過半数をもって決する。人事に関する議決は、出席者の3分の2以上の同意を要する。教授会でのカリキュラム編成、人事案件及び予算に関する審議事項等の案件は、本学部に設けている学部長室委員会が協議し、教授会に提案する。学部長室委員会の構成員は、学部長、副学部

長(教務担当)、副学部長(学生担当)、学部長補佐(教務担当、学生担当、国際担当)、学部長室委員である。また、学部運営の円滑化を推進するために、学部内に各種委員会を設置し、様々な案件の検討、調整を行う。教学面の管理運営に関しては、副学部長(教務担当)、学部長補佐(教務担当)、各学科カリキュラム担当で構成されるカリキュラム委員会を設ける。カリキュラム委員会は月1回開催し、カリキュラムの点検、教育システムの点検、教育目標、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成方針(カリキュラム・ポリシー)等の点検を行う。

なお、平成27年度(2015年度)の学校教育法第93条の改正を踏まえて、本学では大学の教育研究にかかる事項については、学長が教授会、大学評議会等の議決その他を参酌しつつ最終決定することとしており、学則にもその旨を明記している。

11 自己点検・評価

(1) 自己点検・評価

関西学院では、平成3年(1991年)に大学設置基準が大綱化され、各大学における自己評価が努力目標とされたことを契機として、自己点検・評価の取組みを開始した。

自己点検・評価活動は、「内部質保証に関する方針」及び「学院総合企画会議規程」に従って実施されている。「内部質保証に関する方針」は、本学 Web サイトで公表しており、本学における内部質保証の基本的な考え方や組織体制に加え、本学院における教育・研究・社会貢献活動及び管理運営等の行動指針を定めている。同方針に基づき、学院全体の内部質保証の推進に責任を負う組織として、学院総合企画会議を置いている。学院総合企画会議の下にある大学内部質保証部会が、大学の内部質保証の推進に責任を負う組織である。大学内部質保証部会は、学長を議長とし、理事長、副理事長、院長、各理事、人事や財務等の法人系部署の長、高大接続センターやキャリアセンター等の大学の各部署の長、各学部長・研究科長等で構成されている。大学内部質保証部会は大学の自己点検・評価の結果に基づいて継続的な改善・改革を推進している。加えて、平成28年度(2016年度)より、大学全体、各学部・研究科の取組みや課題を共有し、より実質的な自己点検・評価へと結びつけることを目的に、学部・研究科の長をはじめ大学の自己点検・評価に関係する部署が一堂に会し意見を交換する場を設けている。

(2) 機関別認証評価

機関別認証評価としては、平成18年度(2006年度)に財団法人大学基準協会による1回目の機関別認証評価を受審し、「適合」の認定を受けた。2回目の機関別認証評価は、公益財団法人大学基準協会平成25年度(2013年度)に受審し、「適合」の認定を受けた。認定期間は、令和3年(2021年)3月31日までとなっている。令和2年度(2020年度)に公益財団法人大学基準協会3回目の機関別認証評価を受審する予定である。

本学の機関別認証評価の結果については、本学の Web ページで公表している。

12 情報の公表

本学では、公的な教育機関として、社会に対する説明責任を果たすとともに、その教育の質を向上させる観点から、Web ページ、各種出版物等を通じて、教育研究活動等の状況について情報の公表を行っている。

平成 22 年（2010 年）10 月より、本学 Web サイトに、「情報の公表」という Web ページを設置し、以下の（1）から（10）の内容を含む情報を積極的かつ網羅的に公表している。

- (1) 大学の教育研究上の目的に関すること
- (2) 教育研究上の基本組織に関すること
- (3) 教員組織、教員の数ならびに各教員が有する学位及び業績に関すること
- (4) 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業または修了した者の数ならびに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること
- (5) 授業科目、授業の方法及び内容ならびに年間の授業計画に関すること
- (6) 学修の成果に係る評価及び卒業または修了の認定にあたっての基準に関すること
- (7) 校地・校舎等の施設及び施設その他の学生の教育研究環境に関すること
- (8) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
- (9) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
- (10) その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果等）

13 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

(1) 全学的な取組み

本学では、教育力を強化し、教育の質を高めることにより、教育の一層の充実・発展を図ることを目的に高等教育推進センターを設置している。高等教育推進センターでは、本学の教育推進に資する施策の企画・立案、教育力向上に関する全学的方針の立案及びその方策の推進、高等教育に関する政策動向の調査・分析、大学情報（IR データ）の集約・分析、各種調査を活用した教育の開発・支援、学習支援システムを活用した教育の開発・支援、授業に関わる TA・LA 等の教育・指導力向上への支援、高等教育に関する調査・研究、センター紀要、資料等の発行等を実施している。

全学的な FD の取組みの一環として、新任教員研修や FD・SD に関する講演会・ワークショップ、LMS や教育支援ツールの講習会等を行っている。新任教員研修は全新任教員を対象として毎年度始めに実施している。本学の教育目標やミッションステートメントをはじめ、教育・研究活動や学生支援等について理解を深める講義を行っている他、LMS の講習、人権研修プログラムも実施しており、プログラムとして体系化している。FD・SD に関する講演会やワークショップは、全教員を対象としており、その時々に応じた

テーマで実施している。

これらの研修の他、シラバスの改善にも取り組んでいる。全学のシラバスを質的・量的に分析して作成した「授業シラバス執筆の手引き」には、よりよいシラバスを作成するための具体的な書き方も解説しており、非常勤講師を含めた全教員に配付することで、全学的なシラバスの改善を図っている。

また、本学では、職員の自発的・積極的な研修意欲の助長と総合的な計画に基づく研修の実現を目的とし、昭和51年(1976年)6月に職員研修規程を制定している。以来、社会の変化や職員に求められる役割の多様化に応じ、職員の能力向上のための多様な研修プログラムが整備されている。

(2) 生命環境学部の取組み

生命環境学部では、FD委員会を設置し、月1回開催する。本委員会では、学部の教育方針やその特色に照らし合わせて授業形態・方法の点検と改善の方法を議論する。その主な内容は、①履修指導方針の明確化、②各授業科目の合格率の分布表を基にした履修者・評価の偏り等による改善すべき点についての検討、③外部の講師による講演会の開催の3つが中心となっており、その結果は必要に応じて教授会の下のカリキュラム委員会(カリキュラムの横断的な点検及びすり合わせを行う目的で設置)にフィードバックさせ、カリキュラムや授業形態の改善に努める。

学生の授業評価に関しては、毎年、学期ごとに全学生を対象に授業評価を実施し、回収、集計、分析を行う。その結果は学部長室委員会等に報告する。報告された内容については、カリキュラム構成・研究環境をより充実したものにするための基礎資料として、また個々の教員の授業改善の資料として活用する。

さらに、シラバスを開示し、講義目的、内容、事前・事後の学修内容、テキスト、成績評価方法及び基準、学生による授業評価の方法を明示し、インターネットで公表する。これは、学生の授業に対する積極的な態度につながり、より高い学修成果につながることを期待される。また、積極的で意欲的な学生が授業に参加することにより、相互作用が生まれ個別の授業環境及び授業内容のさらなる向上につながることを期待される。

これらの取組みを通じて、組織的に教育内容等の改善を図る。

14 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

(1) 教育課程内の取組みについて

生命環境学部の養成する人材像を踏まえて、社会的・職業的自立に関する指導を行う。生命環境学部の教育課程内の授業科目のうち、社会的・職業的自立に関わりのある授業科目としては、「科学倫理」(総合教育科目)が1・2年次に配置されている。「科学倫理」では、自然環境倫理・情報倫理・生命倫理・技術者倫理について、実社会における具体的な問題を検討し、科学倫理に関して今後生まれてくる課題にも対応できる視座・考え方を修得させる。「外国書講読」、「輪講」、「卒業実験及び演習」(または「卒業調査研究及び演習」)では、学生を個別の研究室に配属し、外国語文献の講読、ゼミ形式での議論、実験とその解析、研究発表等の実践を通して、課題解決の方法を身

につけさせる。これにより、3年次までに講義・実験・実習・演習を通して修得したものを4年次の卒業研究の課題解決のプロセスで生かすことで、卒業後のキャリアに役立てることができる。

また、生命環境学部では、中学校1種（理科）、高等学校1種（理科）の教員免許の取得が可能である。教職課程のプログラムと生命環境学部のカリキュラムは深く関連づけられているので、生命環境学部のカリキュラムを履修することで、同時に教職課程のプログラムを体系的に修得することができる。

(2) 教育課程外の取組みについて

教育課程外の取組みとして、本学では、人生観や世界観を養うことを重視し、ライフデザイン科目が用意されている。ライフデザイン科目の企画、立案、運営及び科目提供は、ハンズオン・ラーニングセンターが行っている。ライフデザイン科目と正課外のプログラムであるキャリアデザイン・サポートプログラム、エクステンションプログラムを併せてライフデザイン・プログラムと位置づけており、入学から卒業までの4年間を通じたキャリア支援、キャリア教育を実施している。ライフデザイン・プログラムを通じて、大学生活の早い時期から様々なキャリア支援、キャリア教育を行うことで、人生観や職業観を養うとともに、自分が社会に対してどのような貢献ができるのかを考える力を、身につけさせることができる体制を整えている。

また、令和2年度（2020年度）において下記の取組みを実施しており、2021年度（令和3年度）以降も継続して実施する予定である。

- ① 就職・進学支援（就職ガイダンス・個別面談・採用試験対策講座等による指導）
全学的には「ライフデザイン・プログラム」が編成され、教育課程外の取組みが実施されている。また、就職希望者等に対しては、個別面談や面接トレーニング等のプログラムを神戸三田キャンパスにおいて実施し、さらに「KG 枠インターンシップ」、「キャリアガイダンス」、「業界・仕事研究セミナー」、「学校推薦求人説明会」等で、理工系学部の学生に特化した内容のプログラムを提供している。
- ② 課外活動支援（ボランティア活動支援）
学生自身の主体的活動もキャリア形成に大きな役割を果たすと同時に、進路選択や人間形成に大きな影響を与える。
- ③ 教育懇談会
保護者との意思疎通を図るため、教育懇談会（個人面談を含む）の中で、保護者対象就職ガイダンスを毎年実施している。

(3) 適切な体制の整備について

全学のキャリア教育の方針を決めるキャリアセンター委員会には、本学部の学部長補佐（教務担当）が委員として参加する。また、神戸三田キャンパスに所在する各学部の就職担当教員を構成員とする就職委員会において、理工系学部の就職支援を含むキャリア支援の企画及び運営を行うこととしている。

神戸三田キャンパスのキャリアセンターでは、専任の職員が常駐し、就職希望者等に対しては個別の相談業務を、教員希望者に対しては採用試験や求人等の情報提供を行う

等、学生のニーズに応じたキャリア支援を実施している。

加えて、日本 IBM 株式会社の AI を活用したチャットボットを導入し、進路や就職に関する学生からの質問に 24 時間・365 日対応する等、きめ細やかなキャリア支援体制を整え、多方面から学生の社会的・職業的自立に向けての準備を支援している。これらの手厚いキャリア支援により、関西学院大学は非常に高い就職実績と満足度を維持している。

以上

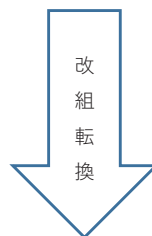
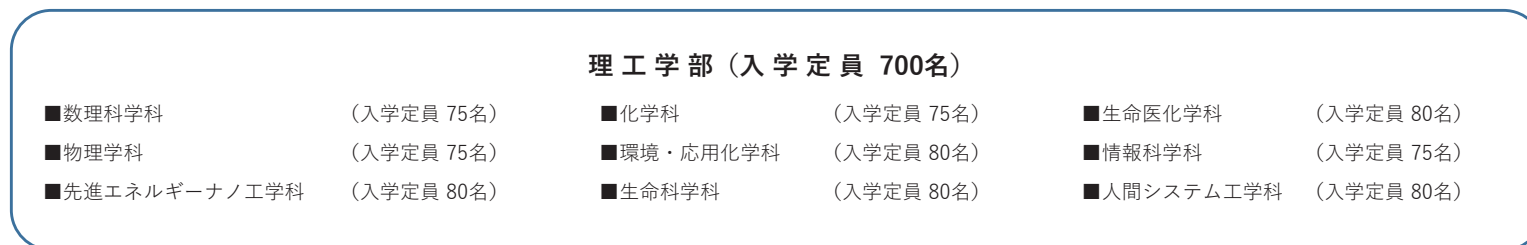
関西学院大学生命環境学部
設置の趣旨等を記載した書類

資料目次

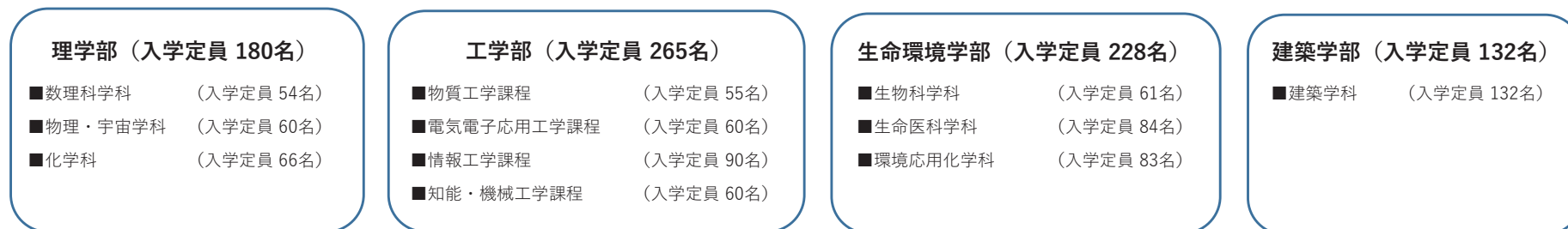
- 【資料 1】 理工学部改組転換全体図
- 【資料 2】 教職員定年に関する規程
- 【資料 3】 生命環境学部生物科学科 履修モデル
- 【資料 4】 生命環境学部生命医科学科 履修モデル
- 【資料 5】 生命環境学部環境応用化学科 履修モデル
- 【資料 6】 生命環境学部 時間割表
- 【資料 7】 生命環境学部生物科学科関係 研究雑誌一覧
- 【資料 8】 生命環境学部生命医科学科関係 研究雑誌一覧
- 【資料 9】 生命環境学部環境応用化学科関係 研究雑誌一覧
- 【資料 10】 一般選抜入学試験選抜方法（生命環境学部）
- 【資料 11】 各種入学試験選抜方法（生命環境学部）

資料1 理工学部 改組転換 全体図

令和2年度（2020年度）



令和3年度（2021年度）



理工学部を改組・発展させ、理学部・工学部・生命環境学部・建築学部の4学部を新設し、理工系分野において、さらに質の高い充実した教育・研究を実現する。

新4学部の開設に伴い理工学部は学生募集停止する。

新4学部の開設と同時期に、総合政策学部の収容定員を2,420名から1,980名に変更する。

令和3年度（2021年度）の大学全体の収容定員の合計は、令和2年度（2020年度）から20名減の22,850名となる。

教職員定年に関する規程

昭和 33 年 1 月 16 日
改正

第 1 条 本学院の専任教職員の定年は 65 歳とする。ただし、教授の資格を有する者及び学校医は 68 歳とする。

第 2 条 定年に達した者はその学年度末をもって現職を退くものとする。

第 3 条 専任教職員で退職時において年齢満 60 歳以上の者は、本人と理事会とのよき了解をもって定年退職者として扱う。

第 4 条 院長は特別職につき、在任中この規程を適用しない。ただし、院長が専任教職員のなかから選任されている場合は、教職員たる職についてのみ、この規程を適用する。

附 則

- 1 年齢計算については、年齢計算に関する法律(明治 35 年 12 月 2 日法律 50 号)により、出生の日から起算して翌年の出生の日の前日までをもって満 1 年とする。
- 2 この規程は、1958 年(昭和 33 年)1 月 1 日から改正施行する。
- 3 この規程は、1965 年(昭和 40 年)4 月 8 日から改正施行する。
- 4 この規程は、1975 年(昭和 50 年)1 月 9 日から改正施行する。
- 5 この規程は、1982 年(昭和 57 年)10 月 9 日から改正施行する。
- 6 この規程は、1984 年(昭和 59 年)4 月 1 日から改正施行する。
- 7 この規程は、1992 年(平成 4 年)4 月 1 日から改正施行する。
- 8 この規程は、2009 年(平成 21 年)4 月 1 日から改正施行する。

資料3 生命環境学部生物科学科履修モデル (1) 植物昆虫科学専攻

	1年次				2年次				3年次				4年次				修得 単位数	
	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数		
総合教育科目	キリスト教科目	キリスト教学A	2	キリスト教学B	2												4	
	英語教育科目	英語リーディングⅠA	1	英語リーディングⅠB	1	英語リーディングⅡA	1	英語リーディングⅡB	1									12
		英語ライティングⅠA	1	英語ライティングⅠB	1	英語ライティングⅡA	1	英語ライティングⅡB	1									
		英語コミュニケーションⅠA	1	英語コミュニケーションⅠB	1	英語コミュニケーションⅡA	1	英語コミュニケーションⅡB	1									
	総合選択科目	哲学	2	社会学	2	経済学	2	西洋史	2									16
地誌学		2	科学倫理	2	サイバー社会入門	2	芸術と技術	2										
専門教育科目	必修科目	生命科学Ⅰ	2	生命科学Ⅱ	2	生命分子・生化学実験	3	細胞・組織学実験	3	先端生命科学実験Ⅰ	8	先端生命科学実験Ⅱ	8	外国書講読	2		42	
		コンピュータ演習A	2	生命科学入門実験	2									輪講	2			
														卒業実験及び演習	8			
	基礎科目	微積分Ⅰ	2	基礎生化学	2												16	
		基礎化学A	2	線形代数学Ⅰ	2													
		基礎生物科学	2	生物統計学	2													
		臨海実習	2	基礎化学B	2													
	専門Ⅰ群科目	生物科学科目					分子遺伝学	2	生命代謝化学	2							16	
							進化生態学	2	生物分析化学	2								
							植物生理学	2										
							データ科学演習	2	発生生物学	2								
							生化学	2										
	専門Ⅱ群科目	植物昆虫科学科目									昆虫生理生態学	2	植物分子生物学	2			8	
											環境生態学	2	植物生産学	2				
		応用微生物科目															10	
	計算生物科目										数理生態学	2				2		
専門選択科目			海外生命環境学プログラムB	2			細胞学	2	科学技術英語A	2	科学技術英語B	2			12			
									特別英語セミナー	2	理工のためのAI基礎	2						
修得単位数		21	23	20	18	18	16	0	12					128				
履修単位数制限		44	24	25	24	34	24	25	24	12								

生命環境学部生物科学科履修モデル (2) 応用微生物学専攻

		1年次				2年次				3年次				4年次				修得 単位数	
		前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数		
総合 教育 科目	キリスト教科目	キリスト教学A	2	キリスト教学B	2												4	32	
	英語教育科目	英語リーディングⅠA	1	英語リーディングⅠB	1	英語リーディングⅡA	1	英語リーディングⅡB	1										12
		英語ライティングⅠA	1	英語ライティングⅠB	1	英語ライティングⅡA	1	英語ライティングⅡB	1										
		英語コミュニケーションⅠA	1	英語コミュニケーションⅠB	1	英語コミュニケーションⅡA	1	英語コミュニケーションⅡB	1										
	総合選択科目	哲学	2	社会学	2	経済学	2	西洋史	2										16
地誌学		2	科学倫理	2	サイバー社会入門	2	芸術と技術	2											
専門 教育 科目	必修科目	生命科学Ⅰ	2	生命科学Ⅱ	2	生命分子・生化学実験	3	細胞・組織学実験	3	先端生命科学実験Ⅰ	8	先端生命科学実験Ⅱ	8	外国書講読			2	42	
		コンピュータ演習A	2	生命科学入門実験	2									輪講			2		
														卒業実験及び演習			8		
	基礎科目	微積分Ⅰ	2	基礎生化学	2													16	
		基礎化学A	2	線形代数学Ⅰ	2														
		基礎生物学	2	生物統計学	2														
		臨海実習	2	基礎化学B	2														
	専門Ⅰ 群 科目	生物科学科目					分子遺伝学	2	生命代謝化学	2								16	
							微生物学	2	生物分析化学	2									
							植物生理学	2											
							生化学	2	細胞生物学	2									
									発生生物学	2									
	専門Ⅱ 群 科目	植物昆虫科学科目																0	
		応用微生物科目								応用微生物学	2	遺伝子工学	2					10	
										光合成微生物学	2	染色体機能学	2						
計算生物科目								発酵醸造学	2							0			
専門 選択 科目				海外生命環境学プログラムB	2			細胞学	2	科学技術英語A	2	科学技術英語B	2				12		
										有機反応論	2	理工のためのAI基礎	2						
修得単位数		21	23	18	20	18	16	0	12							128			
		44		38		34		12											
履修単位数制限		25	24	25	24	25	24	25	24	25	24	25	24						

生命環境学部生物科学科履修モデル (3) 計算生物学専攻

		1年次		2年次		3年次		4年次		修得 単位数						
		前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数		前期	単位数	後期	単位数		
総合 教育 科目	キリスト教科目	キリスト教学A	2	キリスト教学B	2								4	32		
	英語教育科目	英語リーディングⅠA	1	英語リーディングⅠB	1	英語リーディングⅡA	1	英語リーディングⅡB	1						12	
		英語ライティングⅠA	1	英語ライティングⅠB	1	英語ライティングⅡA	1	英語ライティングⅡB	1							
		英語コミュニケーションⅠA	1	英語コミュニケーションⅠB	1	英語コミュニケーションⅡA	1	英語コミュニケーションⅡB	1							
	総合選択科目	哲学	2	社会学	2	経済学	2	西洋史	2						16	
地誌学		2	科学倫理	2	サイバー社会入門	2	芸術と技術	2								
専門 教育 科目	必修科目	生命科学Ⅰ	2	生命科学Ⅱ	2	生命分子・生化学実験	3	細胞・組織学実験	3	先端生命科学実験Ⅰ	8	先端生命科学実験Ⅱ	8	外国書講読	2	42
		コンピュータ演習A	2	生命科学入門実験	2									輪講	2	
															卒業実験及び演習	
	基礎科目	微積分Ⅰ	2	基礎生化学	2											16
		基礎化学A	2	線形代数学Ⅰ	2											
		基礎生物学	2	生物統計学	2											
		臨海実習	2	基礎物理学B	2											
	専門Ⅰ 群 科目	生物科学科目					分子遺伝学	2	生物分析化学	2						16
							微生物学	2	分子進化学	2						
							系統分類学	2								
							データ科学演習	2	細胞生物学	2						
							生化学	2								
	専門Ⅱ 群 科目	植物昆虫科学科目														0
		応用微生物科目														0
		計算生物科目								数理脳科学	2	染色体機能学	2			10
									医学統計学	2	バイオインフォマティクス	2				
									数理生態学	2						
専門選択科目			海外生命環境学プログラムB	2		細胞学	2	科学技術英語A	2	科学技術英語B	2			12		
								特別英語セミナー	2	理工のためのAI基礎	2					
修得単位数		21	23	20	18	18	16	0	12	128						
履修単位数制限		25	24	25	24	25	24	25	24	128						

資料4 生命環境学部生命医科学科 履修モデル (1) 発生再生医科学専攻-①卒業実験及び演習を履修する学生用

	1年次				2年次				3年次				4年次				修得 単位数	
	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数		
総合教育科目	キリスト教科目	キリスト教学A	2	キリスト教学B	2												4	
	英語教育科目	英語リーディングⅠA	1	英語リーディングⅠB	1	英語リーディングⅡA	1	英語リーディングⅡB	1									12
		英語ライティングⅠA	1	英語ライティングⅠB	1	英語ライティングⅡA	1	英語ライティングⅡB	1									
		英語コミュニケーションⅠA	1	英語コミュニケーションⅠB	1	英語コミュニケーションⅡA	1	英語コミュニケーションⅡB	1									
	総合選択科目	心理学	2	科学倫理	2	哲学	2	西洋史	2									12
法学		2	芸術と技術	2	経済学	2	社会学	2										
専門教育科目	必修科目	生命科学Ⅰ	2	生命科学Ⅱ	2	基礎医科学実験Ⅰ	3	基礎医科学実験Ⅱ	3	先端医科学実験Ⅰ	8	先端医科学実験Ⅱ	8					28
				生命科学入門実験	2													
	基礎科目	生命科学倫理	2	基礎生化学	2	生化学	2	細胞生物学	2									16
		コンピュータ演習A	2	生物統計学	2													
		基礎化学A	2	基礎化学B	2													
	専門Ⅰ群科目	発生再生Ⅰ群科目					発生生物学	2										4
							細胞学	2										
		生命医科学Ⅰ群科目					生理学	2										2
		医工学Ⅰ群科目					データ科学演習	2										4
	神経科学科目						化学概論	2										0
																		6
	専門Ⅱ群科目	医科学入門A	2	医科学入門B	2	分子遺伝学	2											6
		発生再生Ⅱ群科目							再生医学	2	ゲノム・エピゲノム医学	2						6
									器官形成学	2								
	生命医科学Ⅱ群科目										発がん分子機構学	2						2
																		0
	医工学Ⅱ群科目																	
専門選択科目	情報工学概論	2	海外生命環境学プログラムB	2	基礎地学Ⅰ	2	基礎地学Ⅱ	2	特別英語セミナー	2	理工のためのAI基礎	2						
	臨海実習	2			進化生態学	2												
修得単位数	23		23		24		18		14		14		0		12		128	
			46				42				28				12			
履修単位数制限	25		24		25		24		25		24		25		24			

生命環境学部生命医科学科 履修モデル (1) 発生再生医科学専攻-②卒業調査研究及び演習を履修する学生用

	1年次				2年次				3年次				4年次				修得 単位数		
	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数			
総合教育科目	キリスト教科目	キリスト教学A	2	キリスト教学B	2												4		
	英語教育科目	英語リーディングⅠA	1	英語リーディングⅠB	1	英語リーディングⅡA	1	英語リーディングⅡB	1									12	
		英語ライティングⅠA	1	英語ライティングⅠB	1	英語ライティングⅡA	1	英語ライティングⅡB	1										
		英語コミュニケーションⅠA	1	英語コミュニケーションⅠB	1	英語コミュニケーションⅡA	1	英語コミュニケーションⅡB	1										
	総合選択科目	心理学	2	科学倫理	2	哲学	2	西洋史	2									16	
法学		2	芸術と技術	2	経済学	2	社会学	2											
専門教育科目	必修科目	生命科学Ⅰ	2	生命科学Ⅱ	2	基礎医科学実験Ⅰ	3	基礎医科学実験Ⅱ	3	先端医科学実験Ⅰ	8	先端医科学実験Ⅱ	8					28	
				生命科学入門実験	2														
	基礎科目	生命科学倫理	2	基礎生化学	2	生化学	2	細胞生物学	2									16	
		コンピュータ演習A	2	生物統計学	2														
		基礎化学A	2	基礎化学B	2														
	専門Ⅰ群科目	発生再生Ⅰ群科目					発生生物学	2										4	
							細胞学	2											
		生命医科学Ⅰ群科目					生理学	2										2	
							データ科学演習	2											4
	神経科学科目					化学概論	2											0	
																		6	
	専門Ⅱ群科目	発生再生Ⅱ群科目	医科学入門A	2	医科学入門B	2	分子遺伝学	2										6	
		生命医科学Ⅱ群科目								再生医学	2	ゲノム・エピゲノム医学	2					6	
										器官形成学	2								4
										免疫学	2	発がん分子機構学	2						2
		医工学Ⅱ群科目								医学統計学	2								2
																			8
	専門選択科目								科学技術英語A	2	科学技術英語B	2	卒業調査研究及び演習				4		
																		16	
	情報工学概論	2	海外生命環境学プログラムB	2	基礎地学Ⅰ	2	基礎地学Ⅱ	2	特別英語セミナー	2	理工のためのAI基礎	2							
	臨海実習	2			進化生態学	2													
修得単位数	23		23		24		18		20		16		0		4		128		
履修単位数制限	25		24		25		24		25		24		25		24				

生命環境学部生命医科学科 履修モデル (2) 生命医科学専攻－①卒業実験及び演習を履修する学生用

	1年次				2年次				3年次				4年次				修得 単位数		
	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数			
総合教育科目	キリスト教科目	キリスト教学A	2	キリスト教学B	2												4		
	英語教育科目	英語リーディングⅠA	1	英語リーディングⅠB	1	英語リーディングⅡA	1	英語リーディングⅡB	1									12	
		英語ライティングⅠA	1	英語ライティングⅠB	1	英語ライティングⅡA	1	英語ライティングⅡB	1										
		英語コミュニケーションⅠA	1	英語コミュニケーションⅠB	1	英語コミュニケーションⅡA	1	英語コミュニケーションⅡB	1										
	総合選択科目	心理学	2	科学倫理	2	哲学	2	西洋史	2									16	
法学		2	芸術と技術	2	経済学	2	社会学	2											
専門教育科目	必修科目	生命科学Ⅰ	2	生命科学Ⅱ	2	基礎医科学実験Ⅰ	3	基礎医科学実験Ⅱ	3	先端医科学実験Ⅰ	8	先端医科学実験Ⅱ	8				28		
				生命科学入門実験	2														
	基礎科目	生命科学倫理	2	基礎生化学	2	生化学	2	細胞生物学	2									16	
		微積分Ⅰ	2	線形代数学Ⅰ	2														
		コンピュータ演習A	2	生物統計学	2														
	専門Ⅰ群科目	発生再生Ⅰ群科目					細胞学	2										2	
		生命医科学Ⅰ群科目				生理学	2	薬理学	2									4	
		医工学Ⅰ群科目				データ科学演習	2											2	
		神経科学科目				神経科学	2											2	
	専門Ⅱ群科目	医科学入門A	2	医科学入門B	2	分子遺伝学	2											6	
		発生再生Ⅱ群科目									ゲノム・エピゲノム医学	2						2	
		生命医科学Ⅱ群科目									ストレス応答学	2	発がん分子機構学	2					4
											免疫学	2							
		医工学Ⅱ群科目																0	
														外国書講読				2	
													輪講				2		
													卒業実験及び演習				8		
専門選択科目		情報工学概論	2		反応速度論	2	化学熱力学	2	特別英語セミナー	2	理工のためのAI基礎	2							
	環境化学	2		分析化学	2			応用微生物学	2								16		
修得単位数		23		21		24		18		16		14		0		12		128	
		44				42				30		12							
履修単位数制限		25		24		25		24		25		24		25		24			

生命環境学部生命医科学科 履修モデル (2) 生命医科学専攻－②卒業調査研究及び演習を履修する学生用

	1年次				2年次				3年次				4年次				修得 単位数	
	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数		
総合教育科目	キリスト教科目	キリスト教学A	2	キリスト教学B	2												4	
	英語教育科目	英語リーディングⅠA	1	英語リーディングⅠB	1	英語リーディングⅡA	1	英語リーディングⅡB	1									12
		英語ライティングⅠA	1	英語ライティングⅠB	1	英語ライティングⅡA	1	英語ライティングⅡB	1									
		英語コミュニケーションⅠA	1	英語コミュニケーションⅠB	1	英語コミュニケーションⅡA	1	英語コミュニケーションⅡB	1									
	総合選択科目	心理学	2	科学倫理	2	哲学	2	西洋史	2									16
法学		2	芸術と技術	2	経済学	2	社会学	2										
専門教育科目	必修科目	生命科学Ⅰ	2	生命科学Ⅱ	2	基礎医科学実験Ⅰ	3	基礎医科学実験Ⅱ	3	先端医科学実験Ⅰ	8	先端医科学実験Ⅱ	8				28	
				生命科学入門実験	2													
	基礎科目	生命科学倫理	2	基礎生化学	2	生化学	2	細胞生物学	2								16	
		微積分Ⅰ	2	線形代数学Ⅰ	2													
		コンピュータ演習A	2	生物統計学	2													
	専門Ⅰ群科目	発生再生Ⅰ群科目					細胞学	2									2	
		生命医科学Ⅰ群科目				生理学	2	薬理学	2								4	
		医工学Ⅰ群科目				データ科学演習	2										2	
		神経科学科目				神経科学	2										2	
			医科学入門A	2	医科学入門B	2	分子遺伝学	2									6	
	専門Ⅱ群科目	発生再生Ⅱ群科目									ゲノム・エピゲノム医学	2					2	
		生命医科学Ⅱ群科目							ストレス応答学	2	発がん分子機構学	2					6	
		医工学Ⅱ群科目							免疫学	2							2	
									医学統計学	2								
									科学技術英語A	2	バイオインフォマティクス	2	卒業調査研究及び演習			4		
	専門選択科目								科学技術英語B	2							16	
		情報工学概論	2		反応速度論	2	化学熱力学	2	特別英語セミナー	2	理工のためのAI基礎	2						
		環境化学	2		分析化学	2			応用微生物学	2								
	修得単位数	23		21		24		18		20		18		0		4		128
		44				42				38				4				
履修単位数制限	25		24		25		24		25		24		25		24			

生命環境学部生命医科学科 履修モデル (3) 医工学専攻-①卒業実験及び演習を履修する学生用

	1年次				2年次				3年次				4年次				修得 単位数		
	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数			
総合教育科目	キリスト教科目	キリスト教学A	2	キリスト教学B	2												4		
	英語教育科目	英語リーディングⅠA	1	英語リーディングⅠB	1	英語リーディングⅡA	1	英語リーディングⅡB	1									12	
		英語ライティングⅠA	1	英語ライティングⅠB	1	英語ライティングⅡA	1	英語ライティングⅡB	1										
		英語コミュニケーションⅠA	1	英語コミュニケーションⅠB	1	英語コミュニケーションⅡA	1	英語コミュニケーションⅡB	1										
	総合選択科目	心理学	2	科学倫理	2	哲学	2	西洋史	2									16	
法学		2	芸術と技術	2	経済学	2	社会学	2											
専門教育科目	必修科目	生命科学Ⅰ	2	生命科学Ⅱ	2	基礎医科学実験Ⅰ	3	基礎医科学実験Ⅱ	3	先端医科学実験Ⅰ	8	先端医科学実験Ⅱ	8					28	
				生命科学入門実験	2														
	基礎科目	生命科学倫理	2	基礎生化学	2	生化学	2	細胞生物学	2									16	
		微積分Ⅰ	2	線形代数学Ⅰ	2														
		コンピュータ演習A	2	生物統計学	2														
	専門Ⅰ群科目	発生再生Ⅰ群科目						細胞学	2									2	
		生命医科学Ⅰ群科目					生理学	2	薬理学	2								4	
		医工学Ⅰ群科目					データ科学演習	2										4	
		神経科学科目					化学概論	2											2
							神経科学	2											
	専門Ⅱ群科目	医科学入門A	医科学入門A	2	医科学入門B	2												4	
		発生再生Ⅱ群科目																0	
		生命医科学Ⅱ群科目												発がん分子機構学	2				2
		医工学Ⅱ群科目									医学統計学	2	生命工学Ⅱ	2					6
											生命工学Ⅰ	2							
		外国語																	2
																			2
																			8
専門選択科目	情報工学概論	2			基礎地学Ⅰ	2	基礎地学Ⅱ	2	特別英語セミナー	2	理工のためのAI基礎	2							
	環境化学	2			反応速度論	2	化学熱力学	2									16		
修得単位数		23	21	24	20	14	14	0	12								128		
		44		44		28		12											
履修単位数制限		25	24	25	24	25	24	25	24	25	24								

生命環境学部生命医科学科 履修モデル (3) 医工学専攻-②卒業調査研究及び演習を履修する学生用

	1年次				2年次				3年次				4年次				修得 単位数		
	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数			
総合教育科目	キリスト教科目	キリスト教学A	2	キリスト教学B	2												4		
	英語教育科目	英語リーディングⅠA	1	英語リーディングⅠB	1	英語リーディングⅡA	1	英語リーディングⅡB	1									12	
		英語ライティングⅠA	1	英語ライティングⅠB	1	英語ライティングⅡA	1	英語ライティングⅡB	1										
	総合選択科目	英語コミュニケーションⅠA	1	英語コミュニケーションⅠB	1	英語コミュニケーションⅡA	1	英語コミュニケーションⅡB	1										16
心理学		2	科学倫理	2	哲学	2	西洋史	2											
	法学	2	芸術と技術	2	経済学	2	社会学	2											
専門教育科目	必修科目	生命科学Ⅰ	2	生命科学Ⅱ	2	基礎医科学実験Ⅰ	3	基礎医科学実験Ⅱ	3	先端医科学実験Ⅰ	8	先端医科学実験Ⅱ	8					28	
				生命科学入門実験	2														
	基礎科目	生命科学倫理	2	基礎生化学	2	生化学	2	細胞生物学	2										16
		微積分Ⅰ	2	線形代数学Ⅰ	2														
		コンピュータ演習A	2	生物統計学	2														
	専門Ⅰ群科目	発生再生Ⅰ群科目						細胞学	2										2
		生命医科学Ⅰ群科目					生理学	2	薬理学	2									4
		医工学Ⅰ群科目					データ科学演習	2											4
		神経科学科目					化学概論	2											2
	専門Ⅱ群科目	医科学入門A	2	医科学入門B	2														4
		発生再生Ⅱ群科目									ゲノム・エピゲノム医学	2							2
		生命医科学Ⅱ群科目									ストレス応答学	2	発がん分子機構学	2					4
		医工学Ⅱ群科目									医学統計学	2	生命工学Ⅱ	2					6
	専門選択科目	情報工学概論	2		基礎地学Ⅰ	2	基礎地学Ⅱ	2	特別英語セミナー	2	理工のためのAI基礎	2							8
		環境化学	2		反応速度論	2	化学熱力学	2											4
											科学技術英語A	2	科学技術英語B	2	卒業調査研究及び演習				4
修得単位数	23		21		24		20		18		18		0		4		128		
	44		44		44		36		36		4		4						
履修単位数制限	25		24		25		24		25		24		25		24				

資料5 生命環境学部環境応用化学科 履修モデル

	1年次				2年次				3年次				4年次				修得 単位数	
	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数		
総合教育科目	キリスト教科目	キリスト教学A	2	キリスト教学B	2												4	
	英語教育科目	英語リーディングⅠA	1	英語リーディングⅠB	1	英語リーディングⅡA	1	英語リーディングⅡB	1									12
		英語ライティングⅠA	1	英語ライティングⅠB	1	英語ライティングⅡA	1	英語ライティングⅡB	1									
		英語コミュニケーションⅠA	1	英語コミュニケーションⅠB	1	英語コミュニケーションⅡA	1	英語コミュニケーションⅡB	1									
	総合選択科目	心理学	2	社会学	2	ドイツ語読解Ⅰ	1	科学倫理	2									16
サイバー社会入門		2	西洋史	2	ドイツ語文法Ⅰ	1	芸術と技術	2										
専門教育科目	必修科目	基礎化学A	2	基礎化学B	2	基礎物理学実験Ⅰ	2	環境応用化学実験Ⅰ	6	環境応用化学実験Ⅱ	6	外国書講読	2				42	
		環境化学	2	基礎化学C	2			環境応用化学実験法Ⅰ	2	環境応用化学実験法Ⅱ	2	2	輪講	2				
		基礎化学実験Ⅰ	2	基礎化学実験Ⅱ	2								卒業実験及び演習	8				
	基礎科目 (数学・物理系)	微積分学Ⅰ	2	基礎物理学B	2													6
		基礎物理学A	2															
	基礎科目 (地学・生命・情報系)	生命科学Ⅰ	2	生命科学Ⅱ	2	基礎地学Ⅰ	2											6
	専門Ⅰ群科目					無機化学	2	化学熱力学	2									14
						基礎量子化学	2	高分子化学	2									
						有機構造論	2	地球環境化学	2									
						分析化学	2											
	専門Ⅱ群科目						発展物理化学	2	錯体化学	2	応用有機化学	2						16
									応用物理化学	2	応用量子化学	2						
									合成有機化学	2	環境分析化学	2						
									環境有機材料化学	2								
	専門選択科目			環境倫理	2				科学技術英語A	2	科学技術英語B	2						12
									特別英語セミナー	2	環境応用化学特別講義	2						
									知財と起業	2								
	修得単位数	21		21		19		15		22		18		0		12		128
		42				34				40				12				
履修単位数制限	25		24		25		24		25		24		25		24			

資料6 生命環境学部 時間割表

春学期 時間割表

	I 時限		II 時限		III 時限		IV 時限		V 時限	
	科目	教室	科目	教室	科目	教室	科目	教室	科目	教室
月曜	英語ライティング I A 19	LLL教室2	微積分学 I 7	VII-103	光合成微生物学	IV-303	基礎化学実験 I 2	化学学生実験室	基礎化学実験 I 2	化学学生実験室
	英語リーディング I A 20	IV-204	生化学	IV-401	環境化学	VII-103	分子遺伝学	VII-101	英語コミュニケーション II A 19	LLL教室4
	英語リーディング I A 21	IV-302	昆虫生理生態学	IV-203	先端医科学実験 I	生命医科学学生実験室	基礎化学実験 I 5	環境応用化学学生実験室	英語コミュニケーション II A 20	LLL教室1
	化学概論	IV-401	先端医科学実験 I	生命医科学学生実験室	基礎量子化学	IV-202	先端医科学実験 I	生命医科学学生実験室	英語ライティング II A 21	LLL教室3
	医学統計学	VII-101	基礎化学実験 I 6	環境応用化学学生実験室	フランス語文法 I 1	IV-304	基礎物理学実験 I 4	物理学生実験室1	数理生態学	VII-102
	英語リーディング I A 22	LLL教室4					フランス語文法 I 2	IV-304	基礎化学実験 I 5	環境応用化学学生実験室
	英語ライティング I A 23	LLL教室5					科学技術英語 A 1	LLL教室3	英語ライティング II A 22	LLL教室5
	英語コミュニケーション I A 24	LLL教室3							英語コミュニケーション II A 23	LLL教室2
	基礎化学実験 I 6	環境応用化学学生実験室							英語リーディング II A 24	IV-204
									先端医科学実験 I	生命医科学学生実験室
火曜	コンピュータ演習 A 12	VI-202	生命科学倫理	VI-101	生命科学 I 1	VII-101	生命分子・生化学実験	生物科学学生実験室	情報工学概論 2	IV-402
	基礎地学 I	VI-101	先端医科学実験 I	生命医科学学生実験室	生命分子・生化学実験	生物科学学生実験室	先端医科学実験 I	生命医科学学生実験室	生命分子・生化学実験	生物科学学生実験室
	英語ライティング I A 22	LLL教室2	コンピュータ演習 A 14	VI-202	反応速度論	VII-104	有機構造論	VII-103	発酵醸造学	IV-201
	英語コミュニケーション I A 23	LLL教室5	有機反応論	VII-104	先端医科学実験 I	生命医科学学生実験室	地球物質科学	VII-104	先端医科学実験 I	生命医科学学生実験室
	英語リーディング I A 24	IV-302	ドイツ語文法 I 1	IV-304	合成有機化学	VII-102	法学	II-102	英語コミュニケーション II A 25	LLL教室3
	分光学	VII-101	哲学	VII-101	ドイツ語文法 I 2	IV-304	科学技術英語 A 7	IV-203	英語コミュニケーション II A 26	LLL教室5
			科学技術英語 A 6	IV-311	論理学	VI-201	日本国憲法	VI-101	英語ライティング II A 27	LLL教室1
					科学技術英語 A 5	LLL教室4				
水曜	基礎化学 A 2	VI-101	器官形成学	VII-101	英語リーディング I A 19	IV-302	英語ライティング II A 19	LLL教室2	環境生態学	VII-101
	系統分類学	VII-101	英語ライティング I A 25	LLL教室1	英語ライティング I A 20	LLL教室4	英語ライティング II A 20	LLL教室3	入門英語 I B 10	IV-304
	化学教学 2	IV-201	英語ライティング I A 26	LLL教室4	英語コミュニケーション I A 21	LLL教室2	英語リーディング II A 21	LLL教室1	入門英語 II B 10	II-212
	科学技術英語 A 3	LLL教室5	英語リーディング I A 27	IV-302	神経科学	IV-305	応用微生物学	VII-101	地誌学	VI-201
	基礎物理学実験 I 3	物理学生実験室1	科学技術英語 A 2	LLL教室3	微生物学	IV-301	コンピュータ演習 A 13	VI-202		
			入門英語 II A 10	II-212	英語コミュニケーション I A 22	LLL教室3	英語リーディング II A 22	IV-302		
			基礎物理学実験 I 3	物理学生実験室1	英語リーディング I A 23	IV-204	英語リーディング II A 23	LLL教室4		
					英語ライティング I A 24	LLL教室1	英語コミュニケーション II A 24	LLL教室5		
					基礎物理学 A 1	IV-401				
					環境応用化学実験法 I	VII-102				
木曜	基礎生物科学 1	VII会議室	英語コミュニケーション I A 19	LLL教室2	基礎物理学 A 2	IV-402	先端生命科学実験 I	生命医科学学生実験室	先端生命科学実験 I	生命医科学学生実験室
	基礎生物科学 2	IV-305	英語コミュニケーション I A 20	LLL教室4	先端生命科学実験 I	生命医科学学生実験室	免疫学	IV-203	生命工学 I	IV-202
	基礎生物科学 3	IV-206	英語ライティング I A 21	LLL教室1	基礎医科学実験 I	生物科学学生実験室	基礎医科学実験 I	生物科学学生実験室	基礎医科学実験 I	生物科学学生実験室
	基礎生物科学 4	IV-202	基礎物理学実験 I 2	物理学生実験室1	環境応用化学実験 I	環境応用化学学生実験室	英語リーディング II A 25	IV-302	環境応用化学実験 I	環境応用化学学生実験室
	基礎生物科学 5	IV-311	先端生命科学実験 I	生命医科学学生実験室	分析化学	VII-104	英語ライティング II A 26	LLL教室1	入門英語 I A 10	II-212
	基礎生物科学 6	IV-304	英語コミュニケーション I A 25	LLL教室5			英語リーディング II A 27	IV-206		
	基礎物理学実験 I 2	物理学生実験室1	英語コミュニケーション I A 26	IV-203			環境応用化学実験 I	環境応用化学学生実験室		
	植物生理学	VII-103	英語リーディング I A 27	LLL教室3			ラテン語文法	IV-304		
	数理解科学	IV-402	英語コミュニケーション I A 27	LLL教室3						
	医科学入門 A	IV-205	錯体化学	VII-102						
金曜	生命科学 I 2	VII-101	科学技術英語 A 4	VC演習室						
	無機化学	IV-401								
	環境有機材料化学	VII-104								
	キリスト教学 A 3	IV-401	生理学 1	IV-401	先端生命科学実験 I	生命医科学学生実験室	英語リーディング II A 19	LLL教室3	データ科学演習	VI-202
	進化生態学	VII-103	先端生命科学実験 I	生命医科学学生実験室	英語リーディング I A 25	IV-311	英語リーディング II A 20	IV-206	先端生命科学実験 I	生命医科学学生実験室
	再生医学	IV-205	ストレス応答学	IV-303	英語コミュニケーション I A 26	LLL教室2	英語コミュニケーション II A 21	LLL教室1	生命科学入門実験 2	生物科学学生実験室
			応用物理化学	VII-104	英語ライティング I A 27	LLL教室4	先端生命科学実験 I	生命医科学学生実験室	英語ライティング II A 25	LLL教室5
			ドイツ語読解 I 1	IV-304	環境応用化学実験 I	環境応用化学学生実験室	英語コミュニケーション II A 22	LLL教室5	英語リーディング II A 26	LLL教室3
			サイバー社会入門	VI-101	ドイツ語読解 I 2	IV-304	英語ライティング II A 23	LLL教室4	英語コミュニケーション II A 27	LLL教室2
					フランス語読解 I 1	IV-303	英語ライティング II A 24	LLL教室2	環境応用化学実験 I	環境応用化学学生実験室
						生命科学入門実験 2	生物科学学生実験室			
						環境応用化学実験 I	環境応用化学学生実験室			
						心理学	II-201			
						フランス語読解 I 2	IV-304			

生命環境学部 時間割表

秋学期 時間割表

	I 時限		II 時限		III 時限		IV 時限		V 時限	
	科目	教室	科目	教室	科目	教室	科目	教室	科目	教室
月曜	英語ライティング I B 19	LLL教室2	生命代謝化学	IV-401	先端医学実験 II	生命医科学学生実験室	生命科学入門実験 3	生物科学学生実験室	生命科学入門実験 3	生物科学学生実験室
	英語リーディング I B 20	IV-204	植物分子生物学	IV-205	フランス語文法 II 1	IV-304	分子進化学	VI-202	英語コミュニケーション II B 19	LLL教室4
	英語リーディング I B 21	IV-302	先端医学実験 II	生命医科学学生実験室			先端医学実験 II	生命医科学学生実験室	英語コミュニケーション II B 20	LLL教室1
	生命工学 II	IV-305					基礎化学実験 II 2	環境応用化学学生実験室	英語ライティング II B 21	LLL教室3
	英語リーディング I B 22	LLL教室4					フランス語文法 II 2	IV-304	医学入門 B	IV-305
	英語ライティング I B 23	LLL教室5					科学技術英語 B 1	LLL教室3	英語ライティング II B 22	LLL教室5
	英語コミュニケーション I B 24	LLL教室3							英語コミュニケーション II B 23	LLL教室2
									英語リーディング II B 24	IV-204
火曜	ゲノム・エピゲノム医学	VII-101	基礎化学 B 2	VI-101	細胞・組織学実験	生物科学学生実験室	基礎化学 C 2	IV-402	細胞・組織学実験	生物科学学生実験室
	英語ライティング I B 22	LLL教室2	基礎地学 II	VI-201	先端医学実験 II	生命医科学学生実験室	細胞・組織学実験	生物科学学生実験室	先端医学実験 II	生命医科学学生実験室
	英語コミュニケーション I B 23	LLL教室5	先端医学実験 II	生命医科学学生実験室	発展有機化学	VII-104	先端医学実験 II	生命医科学学生実験室	英語コミュニケーション II B 25	LLL教室3
	英語リーディング I B 24	IV-302	応用有機化学	VII-102	ドイツ語文法 II 2	IV-303	有機工業化学	VII-102	英語コミュニケーション II B 26	LLL教室5
	入門英語 II A 20	VII-111	ドイツ語文法 II 1	IV-303	入門英語 I A 20	II-211	科学技術英語 B 5	IV-203	英語ライティング II B 27	LLL教室1
	生物統計学	VI-101	発がん分子機構学	VII-101	英語リーディング I B 19	IV-302	生命科学 II 1	IV-402	社会学	VI-101
	生物分析化学	VII-101	英語ライティング I B 25	LLL教室1	英語ライティング I B 20	LLL教室4	英語ライティング II B 19	LLL教室2	入門英語 I B 20	IV-304
	バイオインフォマティクス	VI-202	英語ライティング I B 26	LLL教室4	英語コミュニケーション I B 21	LLL教室2	英語ライティング II B 20	LLL教室3	入門英語 II B 20	VII-111
地球環境化学	VII-111	英語リーディング I B 27	IV-302	細胞学	VII-103	英語リーディング II B 21	LLL教室1			
科学技術英語 B 3	LLL教室5	環境分析化学	VII-102	植物生産学	VII-101	理工のための A I 基礎	VII-101			
水曜			科学技術英語 B 2	LLL教室3	英語コミュニケーション I B 22	LLL教室3	英語リーディング II B 22	IV-302		
					英語リーディング I B 23	IV-204	英語リーディング II B 23	LLL教室4		
					英語ライティング I B 24	LLL教室1	英語コミュニケーション II B 24	LLL教室5		
					環境応用化学実験法 II	VII-102	環境応用化学特別講義	VII-102		
					科学倫理	VI-101				
					科学技術英語 B 6	LLL教室5				
					線形代数学 I 6	VII-101	先端生命科学実験 II	生命医科学学生実験室	先端生命科学実験 II	生命医科学学生実験室
					先端生命科学実験 II	生命医科学学生実験室	基礎医学実験 II	生物科学学生実験室	基礎医学実験 II	生物科学学生実験室
木曜	基礎生化学	IV-402	英語コミュニケーション I B 19	LLL教室2	線形代数学 I 6	VII-101	先端生命科学実験 II	生命医科学学生実験室	先端生命科学実験 II	生命医科学学生実験室
	発生物理学	VII-103	英語コミュニケーション I B 20	LLL教室4	先端生命科学実験 II	生命医科学学生実験室	基礎医学実験 II	生物科学学生実験室	基礎医学実験 II	生物科学学生実験室
	染色体機能学	IV-301	英語ライティング I B 21	LLL教室1	基礎医学実験 II	生物科学学生実験室	英語リーディング II B 25	IV-302	環境応用化学実験 II	環境応用化学学生実験室
	化学熱力学	IV-305	先端生命科学実験 II	生命医科学学生実験室	環境応用化学実験 II	環境応用化学学生実験室	英語ライティング II B 26	LLL教室1		
	生命科学 II 2	IV-401	高分子化学	VII-101			英語リーディング II B 27	IV-206		
			英語コミュニケーション I B 25	LLL教室5			環境応用化学実験 II	環境応用化学学生実験室		
			英語リーディング I B 26	IV-203			ラテン語読解	IV-304		
			英語コミュニケーション I B 27	LLL教室3						
金曜	キリスト教 B 3	IV-401	先端生命科学実験 II	生命医科学学生実験室	基礎物理学 B 2	IV-305	英語リーディング II B 19	LLL教室3	先端生命科学実験 II	生命医科学学生実験室
	細胞生物学	IV-305	発展物理化学	VII-104	薬理学	VII-101	英語リーディング II B 20	IV-206	生命科学入門実験 4	生物科学学生実験室
	遺伝子工学	IV-301	応用物性化学	VII-102	先端生命科学実験 II	生命医科学学生実験室	英語コミュニケーション II B 21	LLL教室1	基礎物理学 B 1	IV-402
			ドイツ語読解 II 1	IV-304	英語リーディング I B 25	IV-311	先端生命科学実験 II	生命医科学学生実験室	英語ライティング II B 25	LLL教室5
					英語コミュニケーション I B 26	LLL教室2	生命科学入門実験 4	生物科学学生実験室	英語リーディング II B 26	LLL教室3
					英語ライティング I B 27	LLL教室4	英語コミュニケーション II B 22	LLL教室5	英語コミュニケーション II B 27	LLL教室2
					環境倫理	II-201	英語ライティング II B 23	LLL教室4	環境応用化学実験 II	環境応用化学学生実験室
					環境応用化学実験 II	環境応用化学学生実験室	英語ライティング II B 24	LLL教室2		
				ドイツ語読解 II 2	IV-303	環境応用化学実験 II	環境応用化学学生実験室			
				フランス語読解 II 1	IV-304	フランス語読解 II 2	IV-304			
				芸術と技術	VI-101	西洋史	IV-401			

資料7 生命環境学部生物科学科関係 研究雑誌一覧

雑誌名	出版元	和・洋の区分
バイオサイエンスとインダストリー	バイオインダストリー協会	和
バイオテクノロジージャーナル	羊土社	和
Bioベンチャー	羊土社	和
遺伝	エヌ・ディー・エス	和
化学と生物	東京大学出版会	和
日本生理学雑誌	日本生理学会	和
日本生態学会誌	日本生態学会	和
細胞	ニュー・サイエンス社	和
細胞工学	秀潤社	和
生物物理	吉岡書店	和
生物科学	岩波書店	和
生物工学会誌	日本生物工学会	和
生化学	日本生化学会	和
染色体. II : 基礎細胞学雑誌	染色体学会	和
植物学雑誌	東京植物學會編輯所	和
植物及動物	養賢堂	和
蛋白質・核酸・酵素	共立出版	和
低温科学	岩波書店	和
動物学雑誌	日本動物学会	和
Annual review of biochemistry	Annual Reviews	洋
Annual review of biophysics	Annual Reviews	洋
Annual review of cell and developmental biology	Annual Reviews	洋
Annual review of genetics	Annual Reviews	洋
Annual review of genomics and human genetics	Annual Reviews	洋
Annual review of immunology	Annual Reviews	洋
Annual review of microbiology	Annual Reviews	洋
Annual review of neuroscience	Annual Reviews	洋
Annual review of pharmacology and toxicology	Annual Reviews	洋
Annual review of physiology	Annual Reviews	洋
Annual review of plant biology	Annual Reviews	洋
Biochemical and biophysical research communications	Elsevier	洋
Biochimica et biophysica acta. General subjects	Elsevier	洋
Bioscience, biotechnology, and biochemistry	社団法人日本農芸化学会	洋
CANCER CELL	Cell Press	洋
Cancer research	American Association for Cancer Research	洋
CELL	Elsevier	洋
Chromosome Science	Society of Chromosome Research	洋
CURRENT BIOLOGY	Elsevier	洋
Current opinion in cell biology	Elsevier	洋
Current opinion in neurobiology	Elsevier	洋
Development	The Company of Biologists	洋
Developmental biology	Elsevier	洋
DEVELOPMENTAL CELL	Cell Press	洋
EMBO Journal	Nature	洋
Experimental cell research	Elsevier	洋
FEBS letters	Elsevier	洋
Genes & development	Cold Spring Harbor Laboratory Press	洋
Journal of bacteriology	American Society for Microbiology	洋
Journal of Biomedical Optics	SPIE	洋
Journal of cell biology	The Rockefeller University Press	洋
Journal of cell science	The Company of Biologists	洋
Journal of Plant Research	Botanical Society of Japan	洋
Journal of proteome research	American Chemical Society	洋

雑誌名	出版元	和・洋の区分
Molecular & Cellular Proteomics OnLine only	American Society for Biochemistry and Molecular Biology	洋
Molecular and cellular biology	American Society for Microbiology	洋
Molecular biology of the cell	American Society for Cell Biology	洋
MOLECULAR CELL	Cell Press	洋
Molecular genetics and genomics : MGG	Springer	洋
Molecular microbiology	Wiley	洋
Molecular pharmacology : an international journal	American Society for Pharmacology and Experimental Therapeutics	洋
Nature biotechnology	Nature	洋
Nature cell biology	Nature	洋
Nature genetics	Nature	洋
Nature immunology	Nature	洋
Nature medicine	Nature	洋
Nature reviews molecular cell biology	Nature	洋
NEURON	Cell Press	洋
Nucleic acids research	Oxford Publishing Limited	洋
Proceedings of National Academy of Sciences of United States of America	National Academy of Sciences	洋
The Journal of biological chemistry	American Society for Biochemistry and Molecular Biology	洋
The Journal of experimental biology	The Company of Biologists	洋
The Journal of pharmacology and experimental therapeutics	The American Society for Pharmacology and Experimental Therapeutics	洋
Toxicology	Elsevier	洋
Trends in biochemical sciences	Elsevier	洋
Trends in plant science	Elsevier	洋
Zoological Science	Zoological Society of Japan	洋

資料8 生命環境学部生命医科学科関係 研究雑誌一覧

雑誌名	出版元	和・洋の区分
ファルマシア	日本薬学会	和
薬学雑誌	日本薬学会	和
遺伝	エヌ・ディー・エス	和
化学と生物	東京大学出版会	和
実験医学 = Experimental medicine	羊土社	和
蛋白質・核酸・酵素	共立出版	和
低温科学	岩波書店	和
日本生態学会誌	日本生態学会	和
日本生理学雑誌	日本生理学会	和
膜	日本膜学会	和
Annual review of genetics	Annual Reviews	洋
Annual review of genomics and human genetics	Annual Reviews	洋
Annual review of immunology	Annual Reviews	洋
Annual review of medicine	Annual Reviews	洋
Annual review of neuroscience	Annual Reviews	洋
Annual review of pharmacology and toxicology	Annual Reviews	洋
Biological & pharmaceutical bulletin	Pharmaceutical Society of Japan	洋
Bioorganic & medicinal chemistry letters	Pergamon Press	洋
Cancer Cell	Cell Press	洋
Cancer letters	Elsevier	洋
Cancer research	American Association for Cancer Research	洋
Cancer research	American Association for Cancer Research	洋
Carcinogenesis	IRL Press	洋
Chemical & pharmaceutical bulletin	Pharmaceutical Society of Japan	洋
Chromosome Science	Society of Chromosome Research	洋
Clinical cancer research	American Association for Cancer Research	洋
Development	The Company of Biologists	洋
Drug metabolism and pharmacokinetics	Japanese Society for the Study of Xenobiotics	洋
Gene expression patterns	Elsevier	洋
Genes & development	Cold Spring Harbor Laboratory Press	洋
Journal of antibiotics	Japan Antibiotics Research Association	洋
Journal of bacteriology	American Society for Microbiology	洋
Journal of Biomedical Optics	SPIE	洋
Journal of experimental medicine	Rockefeller University Press	洋
Journal of pharmacology and experimental therapeutics	The American Society for Pharmacology and Experimental Therapeutics	洋
Journal of toxicological sciences	日本トキシコロジー学会	洋
lancet	Elsevier	洋
Methods of information in medicine	European Federation for Medical Informatics	洋
Molecular pharmacology : an international journal	American Society for Pharmacology and Experimental Therapeutics	洋
Nature genetics	Nature	洋
Nature immunology	Nature	洋
Nature medicine	Nature	洋
Neuroimage	Academic Press	洋
Neuron	Cell Press	洋
Neuroreport	Rapid Communications of Oxford	洋
Nucleic acids research	Oxford Publishing Limited	洋
Proceedings of National Academy of Sciences of United States of America	National Academy of Sciences	洋
Proceedings of the Institution of Mechanical Engineers. Pt. H, Journal of engineering in medicine	Mechanical Engineering Publications	洋
Toxicology	Elsevier	洋
Trends in plant science	Elsevier	洋
Transactions of the ASME. Journal of medical devices	ASME	洋
Tropical medicine & international health	Wiley	洋

資料9 生命環境学部環境応用化学科関係 研究雑誌一覧

雑誌名	出版元	和・洋の区分
ファルマシア	日本薬学会	和
ぶんせき	日本分析化学会	和
化学と教育 = Chemical education	日本化学会	和
化学と工業	日本化学会 = Chemistry and chemical industry	和
化学と生物	日本農芸化学会	和
化学	化学社	和
現代化学 = Chemistry today	東京化学同人	和
高分子	高分子学会	和
質量分析 = Mass spectroscopy	質量分析研究会	和
地質学雑誌	日本地質学会	和
日本結晶学会誌	日本結晶学会	和
分光研究	日本分光学会	和
分析化学	日本分析化学会	和
薬学雑誌 = Journal of the Pharmaceutical Society of Japan	日本薬学会	和
Accounts of chemical research	American Chemical Society	洋
Acta crystallographica. Sect. A, Foundations of crystallography	Wiley	洋
Acta crystallographica. Sect. B, Structural science	Wiley	洋
Acta crystallographica. Sect. C, Crystal structure communications	Wiley	洋
Analytical chemistry	American Chemical Society Journals	洋
Angewandte Chemie	Wiley	洋
Biochemistry	American Chemical Society	洋
Bioorganic & Medicinal Chemistry	Elsevier	洋
Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters	Elsevier	洋
Bioscience, biotechnology, and biochemistry	日本農芸化学会	洋
Bulletin of the Chemical Society of Japan	The Chemical Society of Japan	洋
Chemical communications : chem comm / Royal Society of Chemistry	Royal Society of Chemistry	洋
Chemical geology	Elsevier	洋
Chemical physics letters	Elsevier	洋
Chemical reviews	American Chemical Society	洋
Chemical Society reviews	Royal Society of Chemistry	洋
Chemistry : a European journal	Wiley	洋
Chemistry letters	Chemical Society of Japan	洋
Dalton transactions : an international journal of inorganic chemistry	Royal Society of Chemistry	洋
European journal of inorganic chemistry	Wiley	洋
Geochimica et cosmochimica acta	Elsevier	洋
Helvetica chimica acta	Wiley	洋
Inorganic chemistry	American Chemical Society	洋
Inorganic chemistry communications	Elsevier	洋
Inorganica chimica acta	Elsevier	洋
Journal of analytical atomic spectrometry	Royal Society of Chemistry	洋
Journal of chemical physics	American Institute of Physics	洋
Journal of molecular biology	Elsevier	洋
Journal of organic chemistry	American Chemical Society	洋
Journal of physical chemistry. A,B,C	American Chemical Society	洋
Journal of the American Chemical Society	American Chemical Society	洋
Lithos	Elsevier	洋
Macromolecules	American Chemical Society	洋
Nature Chemistry	Springer Nature	洋
Organic & biomolecular chemistry	Royal Society of Chemistry	洋
Physical chemistry, chemical physics : a journal of European Chemical Societies : PCCP	Royal Society of Chemistry	洋
Polyhedron	Elsevier	洋
Polymer Chemistry	Royal Society of Chemistry	洋
Protein science : a publication of the Protein Society	Wiley	洋

雑誌名	出版元	和・洋の区分
Synlett	Thieme	洋
Synthesis : international journal of methods in synthetic organic chemistry	Thieme	洋
Tetrahedron	Elsevier	洋
Tetrahedron Letters	Elsevier	洋
Tetrahedron: Asymmetry	Elsevier	洋